

男女共同参画関連調査 結果概要

唐津市 未来創生部 男女参画・女性活躍推進課

2019年3月27日

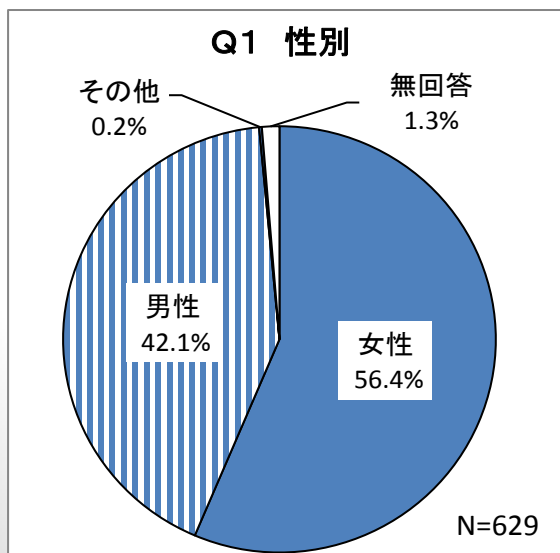
調査の概要

1 市民意識調査

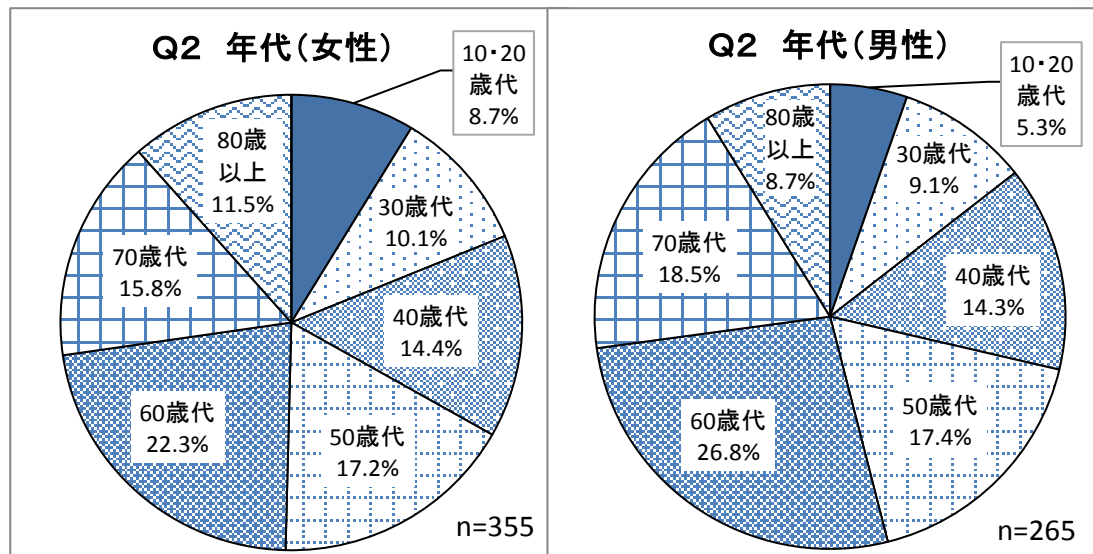
- (1) 調査期間：平成30年8月10日～8月27日
- (2) 調査対象：市内居住18歳以上の男女各1,000人（合計2,000人）
- (3) 回収率：31.6%（有効回答率：31.5%）
- (4) 調査項目

	分野	設問番号	設問数（副設問を含む）
1	回答者の属性	Q1～Q5	6問
2	結婚や家庭生活について	問1～問2	2問
3	教育・子育てについて	問3～問4	2問
4	仕事と生活について	問5～問12	15問
5	心と身体の健康について	問13～問14	2問
6	社会活動について	問15～問17	4問
7	人権尊重について	問18～問24	11問
8	男女共同参画について	問25～問26	2問
	合計		44問

(5) 男女比



(6) 年齢構成



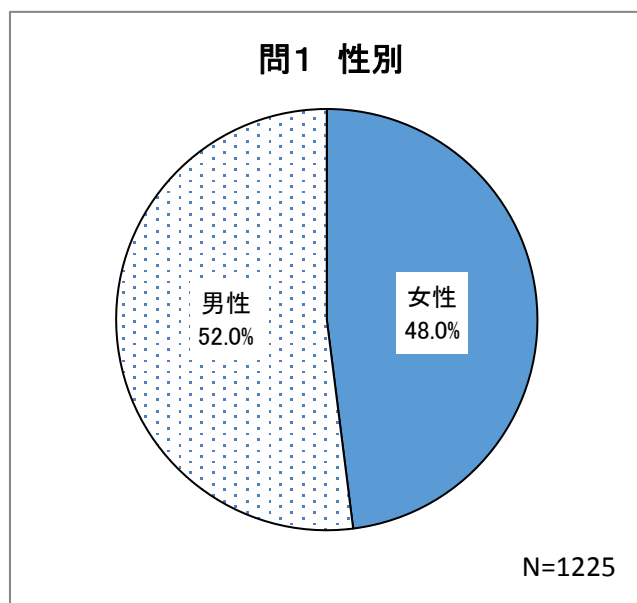
調査の概要

2 中学生意識調査

- (1) 調査期間：平成30年12月4日～12月28日
- (2) 調査対象：市内中学校の2年生男女1,309人
- (3) 回収率：93.7%（有効回答率：93.6%）
- (4) 調査項目

	分野	設問番号	設問数（副設問を含む）
1	回答者の属性	問1～問2	2問
2	男女平等について	問3～問7	7問
3	将来について	問8～問13	6問
4	男女共同参画社会について	問14～15	2問
5	自分らしく生きられる社会について	問16～問18	3問
6	男女間の人権について	問19～問23	5問
合計			25問

(5) 男女比



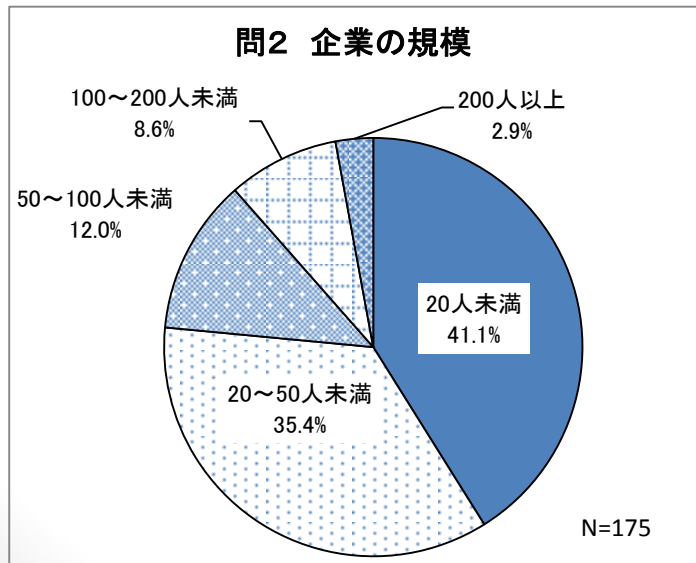
調査の概要

3 企業アンケート調査

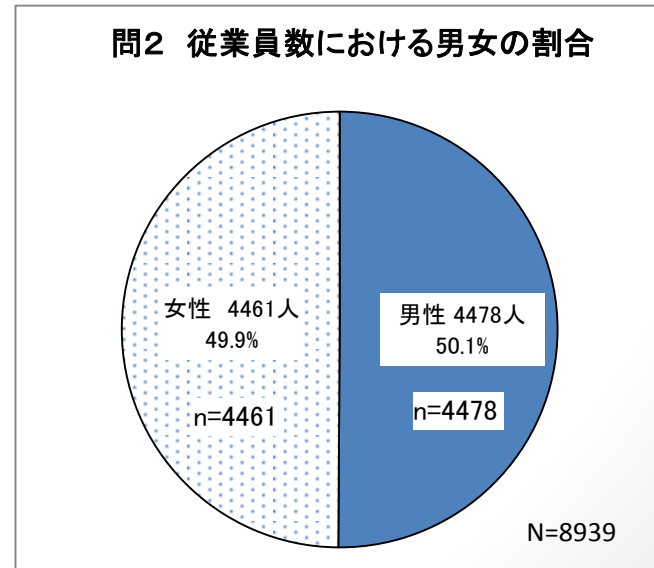
- (1) 調査期間：平成30年9月5日～9月25日
- (2) 調査対象：市内の本社がある従業員10人以上の企業399社
- (3) 回収率：43.9%（有効回答率：43.9%）
- (4) 調査項目

	分野	設問番号	設問数（副設問を含む）
1	企業の概要	問1～問3	3問
2	女性の活躍推進について	問4～問9	10問
3	女性の再就職状況について	問10	3問
4	育児・介護との両立支援について	問11～問14	7問
5	ワーク・ライフ・バランスについて	問15	2問
6	ハラスメントについて	問16	1問
7	一般事業主行動計画について	問17～問18	2問
8	男女共同参画に関する行政の取組み・支援について	問19	1問
合計			29問

(5) 企業規模



(6) 従業員の男女比



その他

1 講話とワークショップ

【1回目】

- ①日時：平成30年11月17日(土) 10時～正午
- ②場所：唐津市民交流プラザ会議室
- ③参加人数：14人

【2回目】

- ①日時：平成30年11月28日(水) 14時～16時
- ②場所：相知交流文化センター研修室
- ③参加人数：27人

【内容】

講話「男女共同参画ってなんだろう？」（講師：池田宏子先生）
ワークショップ「みんなで考えよう～身近なところから男女共同参画」
※5人程度のグループに分かれて、男女共同参画の課題、解決策などを検討

2 従業員グループインタビュー

- ①日時：平成31年2月13日(水) 14時～15時30分
- ②場所：唐津市民会館会議室
- ③参加者：市内事業所に勤務する20代～40代の一般従業員（男女各5人）

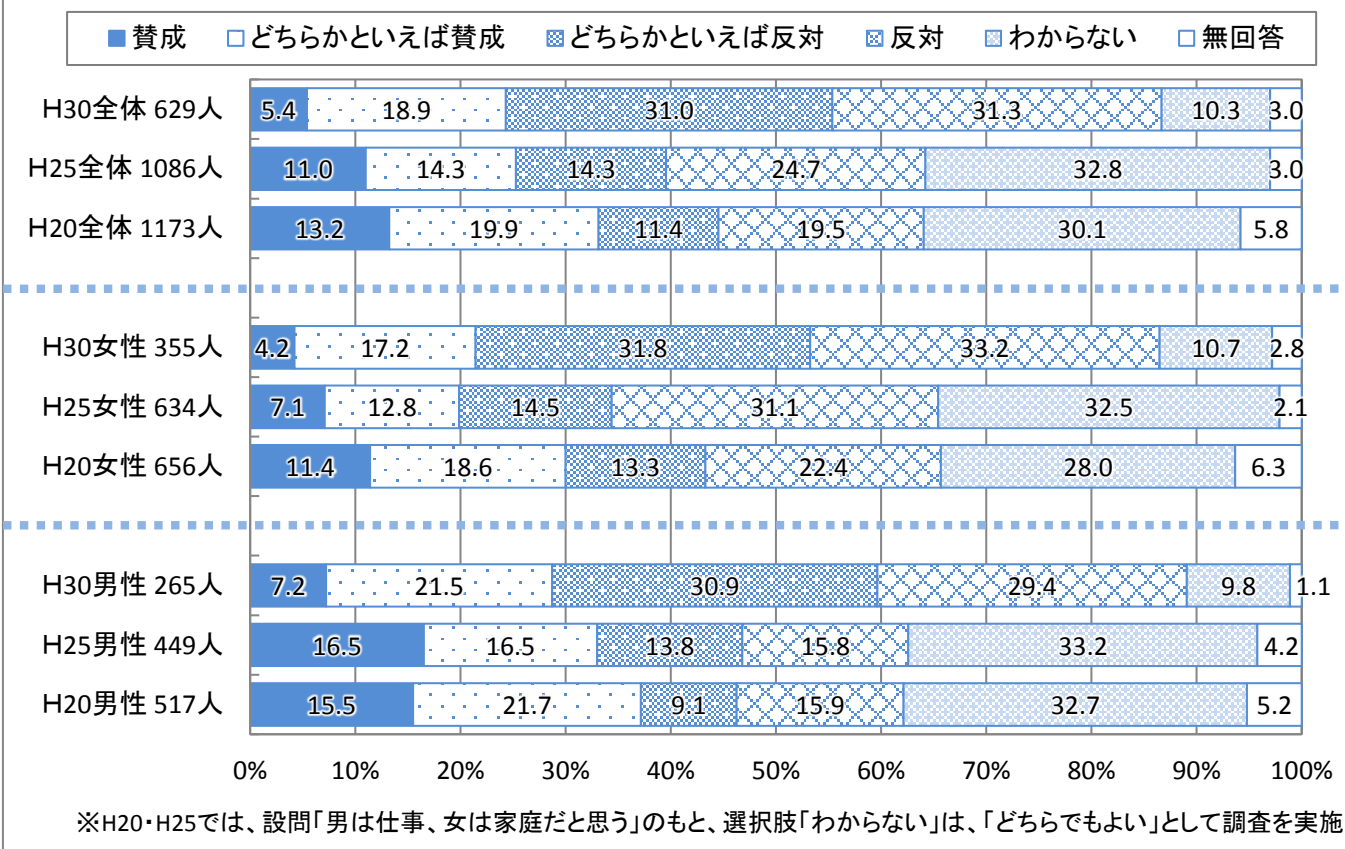
【内容】

2つのグループに分かれて、男女共同参画と女性活躍推進について、職場における課題、解決策などを検討

男女共同参画の意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

【過去調査比較】問1-(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



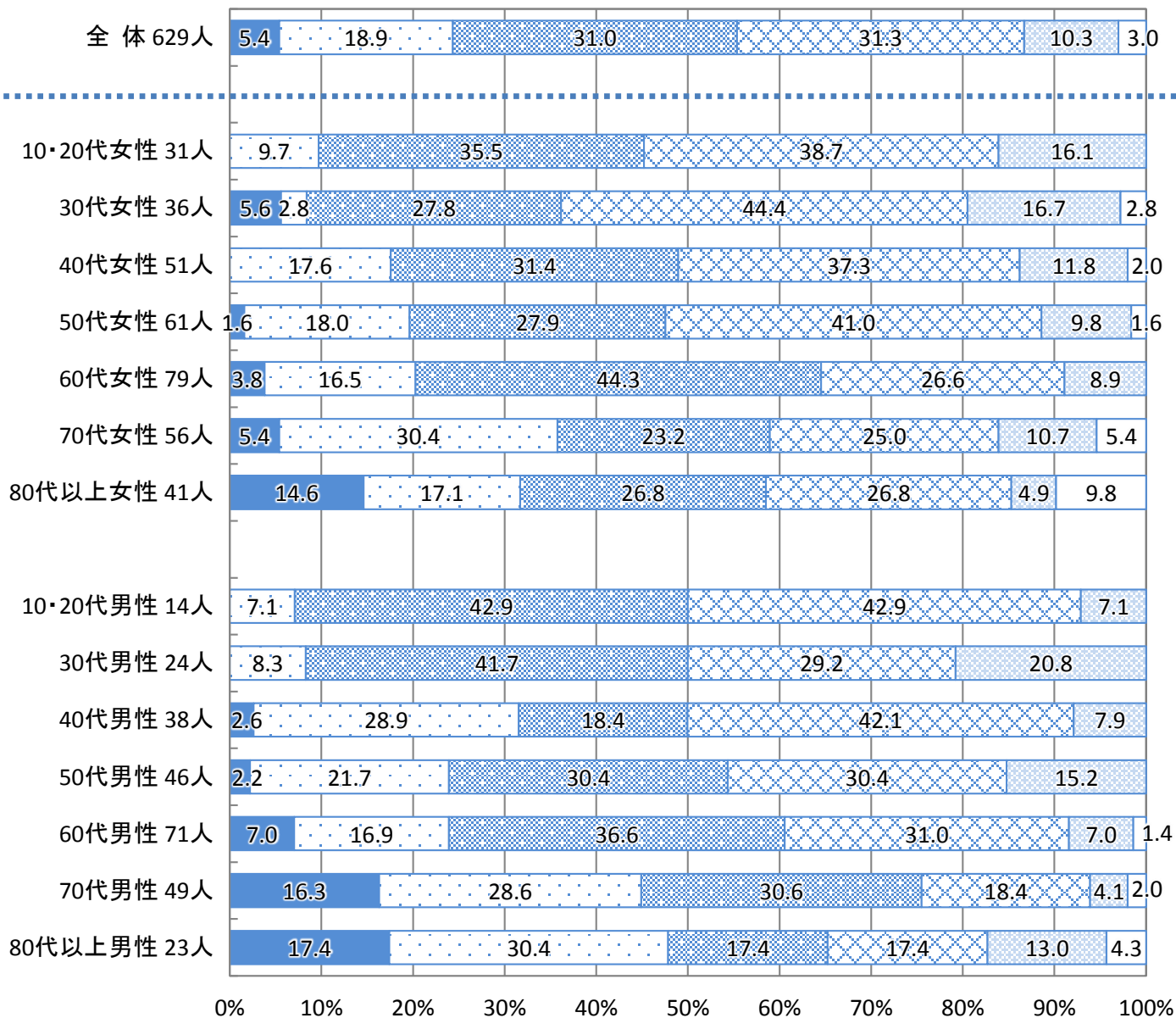
全体では、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成率』24.3%、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた『反対率』62.3%である。

『賛成率』は、女性21.4%、男性28.7%、『反対率』は、女性65.0%、男性60.3%となっており、『賛成率』は男性が女性より7.3ポイント高く、『反対率』は女性が男性より4.7ポイント高い。

平成25年調査の『賛成率』は女性19.9%、男性33.0%、『反対率』は女性45.6%、男性29.6%、平成20年調査の『賛成率』は女性30.0%、男性37.2%、『反対率』は女性35.7%、男性25.0%となっており、この10年間で男女とも『反対率』が大きく上昇している。

問1-(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 ■ わからない □ 無回答



賛成
24.3%

反対
62.3%

今回調査の『賛成率』と『反対率』の差は、女性43.6ポイント、男性31.6ポイントと大きな開きがある。

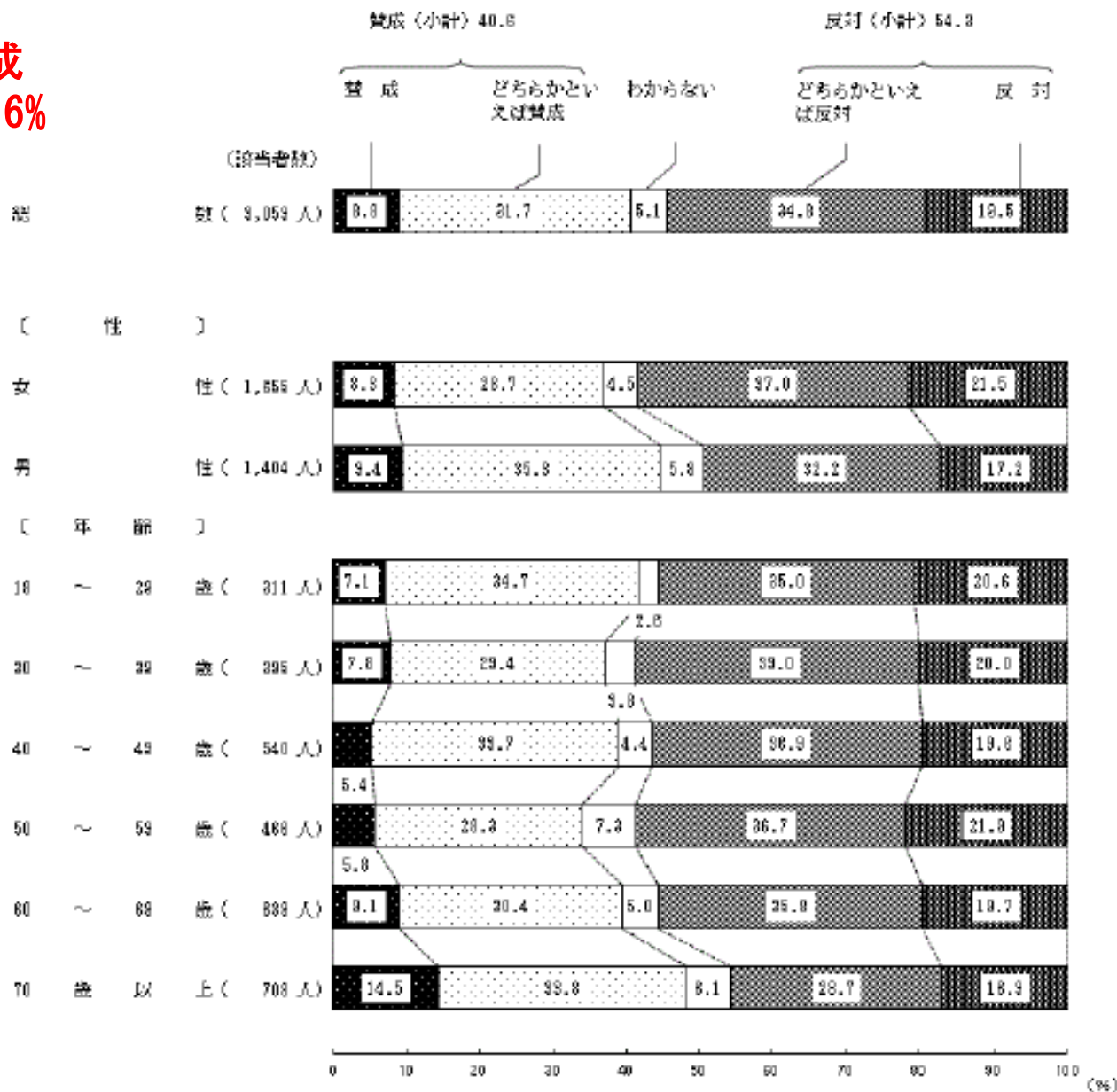
男女ともに年代が低いほどその差は大きく、10・20代では女性64.5ポイント、男性78.7ポイント『反対率』が高く、10・20代の男女、30代男性、40代女性は「賛成」が0%となっている。

<参考：内閣府世論調査（H28年度）>

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

賛成
40.6%

反対
54.3%

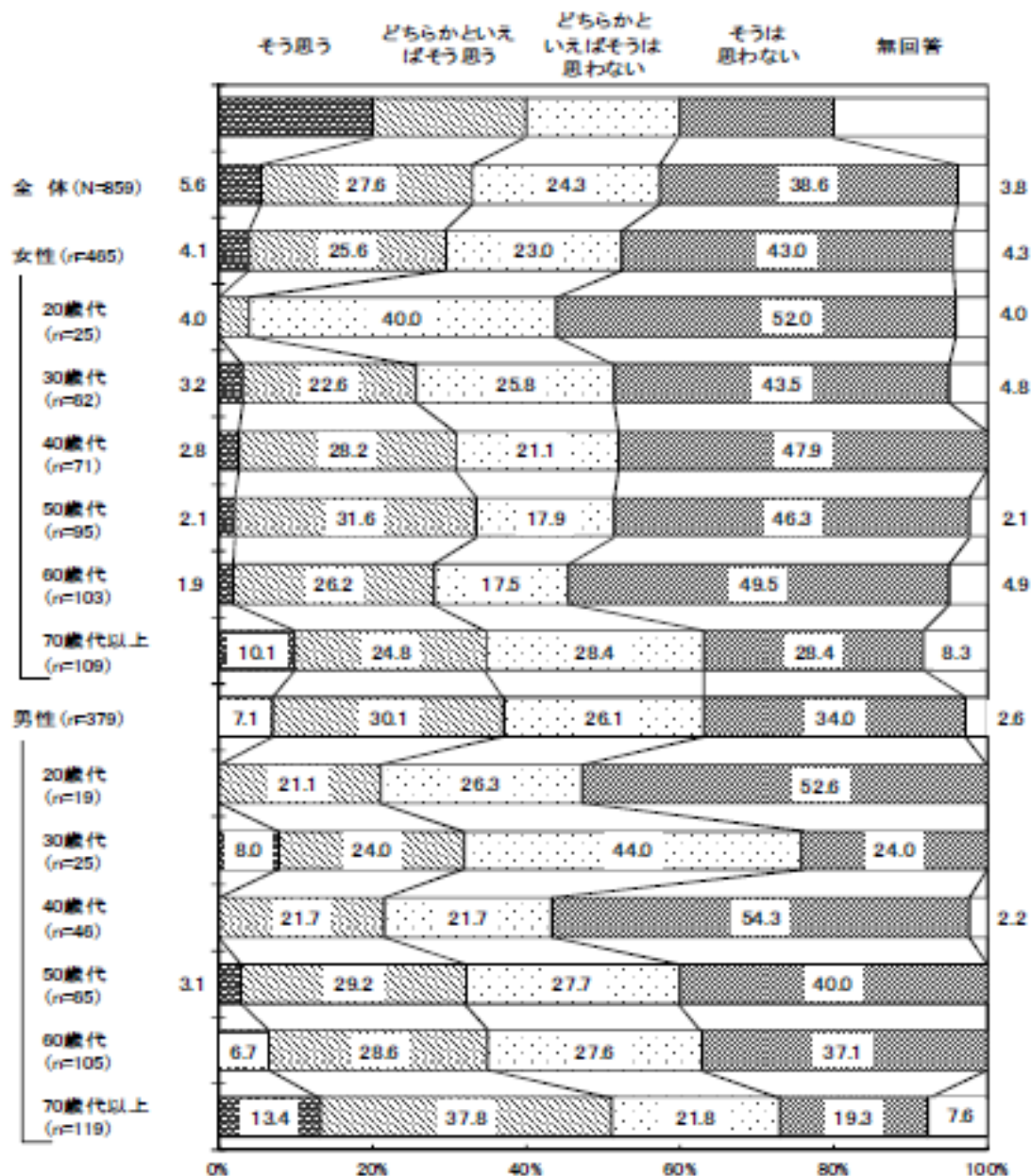


<参考：佐賀県民意識調査（H26年度）>

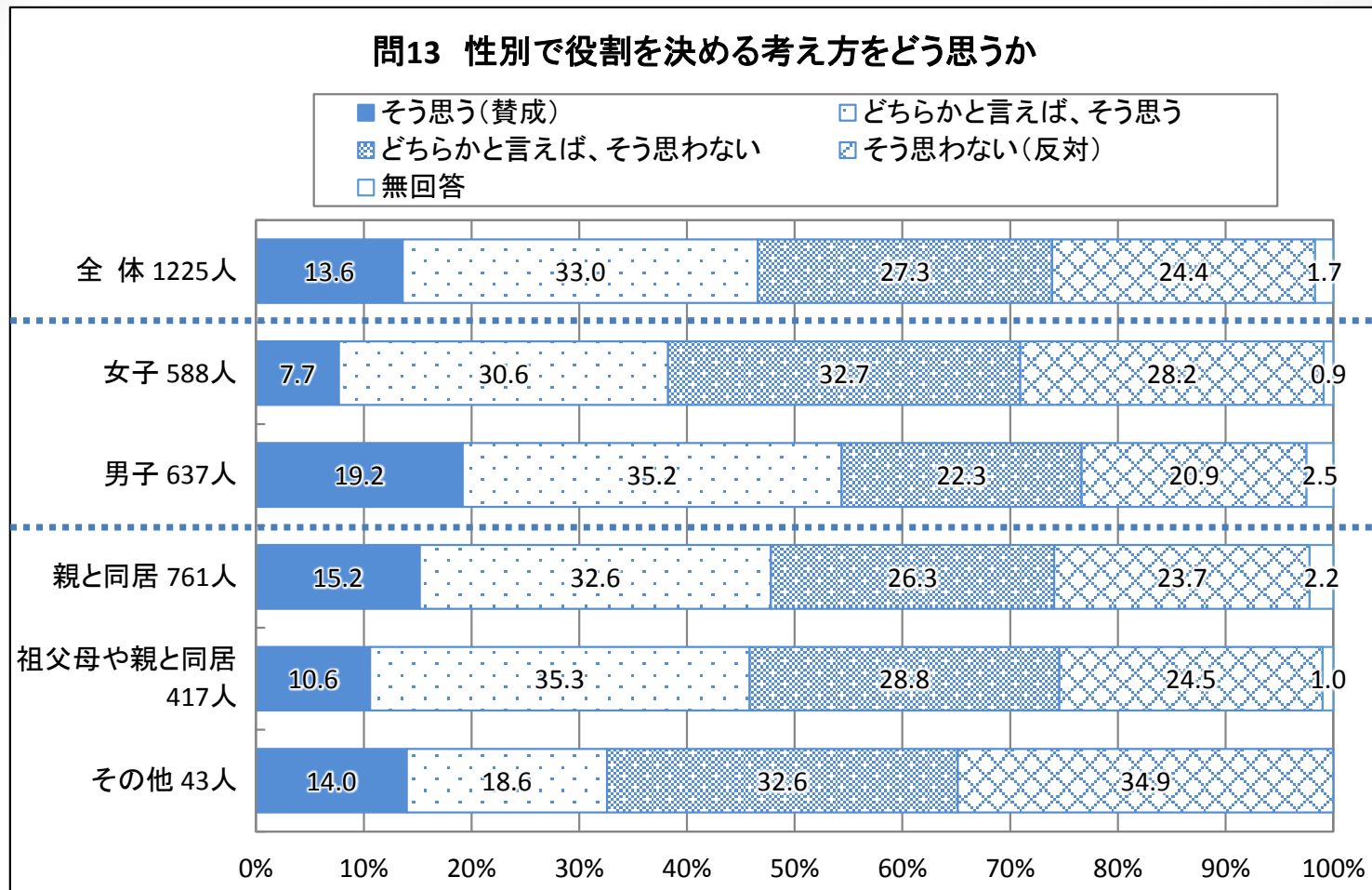
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

賛成
33.2%

反対
62.9%



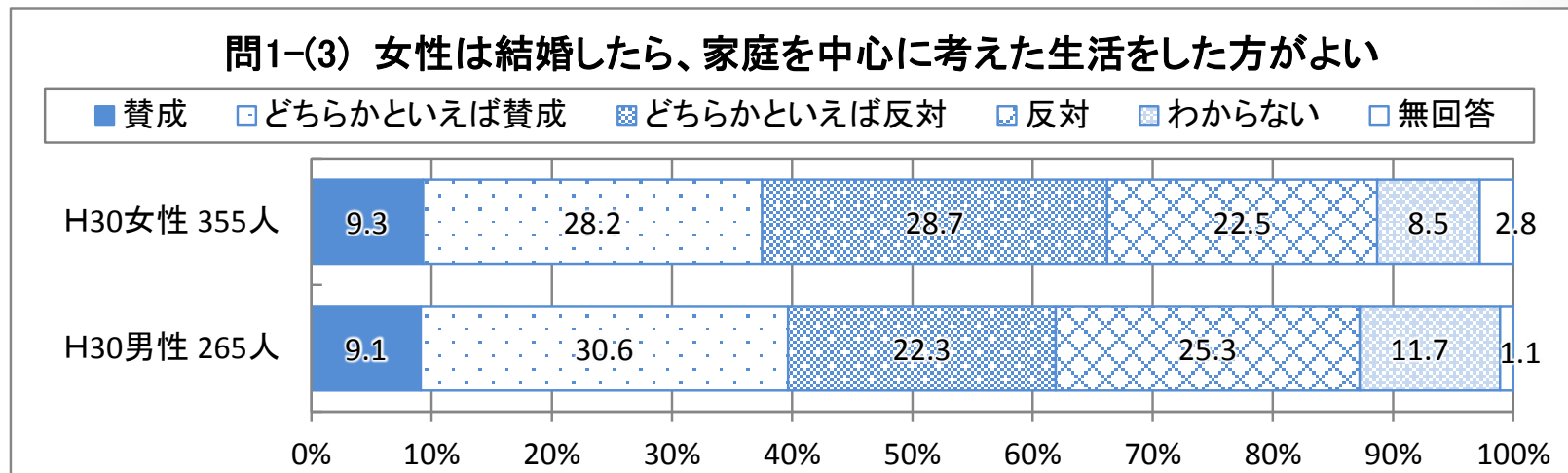
< 中学生意識調査 >



「夫が外で働き、妻は家庭を守る」という性別で役割を決める考え方について、全体では「そう思う（賛成）」、「どちらかと言えば、そう思う」を合わせた賛成する考え方が46.6%、「どちらかと言えば、そう思わない」、「そう思わない（反対）」を合わせた反対する考え方が51.7%となっている。

男女別では、「そう思う（賛成）」「どちらかと言えば、そう思う」に占める女子の割合が38.3%、男子の割合が54.4%と、男子が16.1ポイント高くなっており、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という固定的な性役割意識について、男女間で意識の差が見られる。

「女性は結婚したら、家庭を中心に考えた生活をした方がよい」という考えについて



全体では『賛成率』38.0%、『反対率』49.3%となっており、『反対率』が11.3ポイント高い。

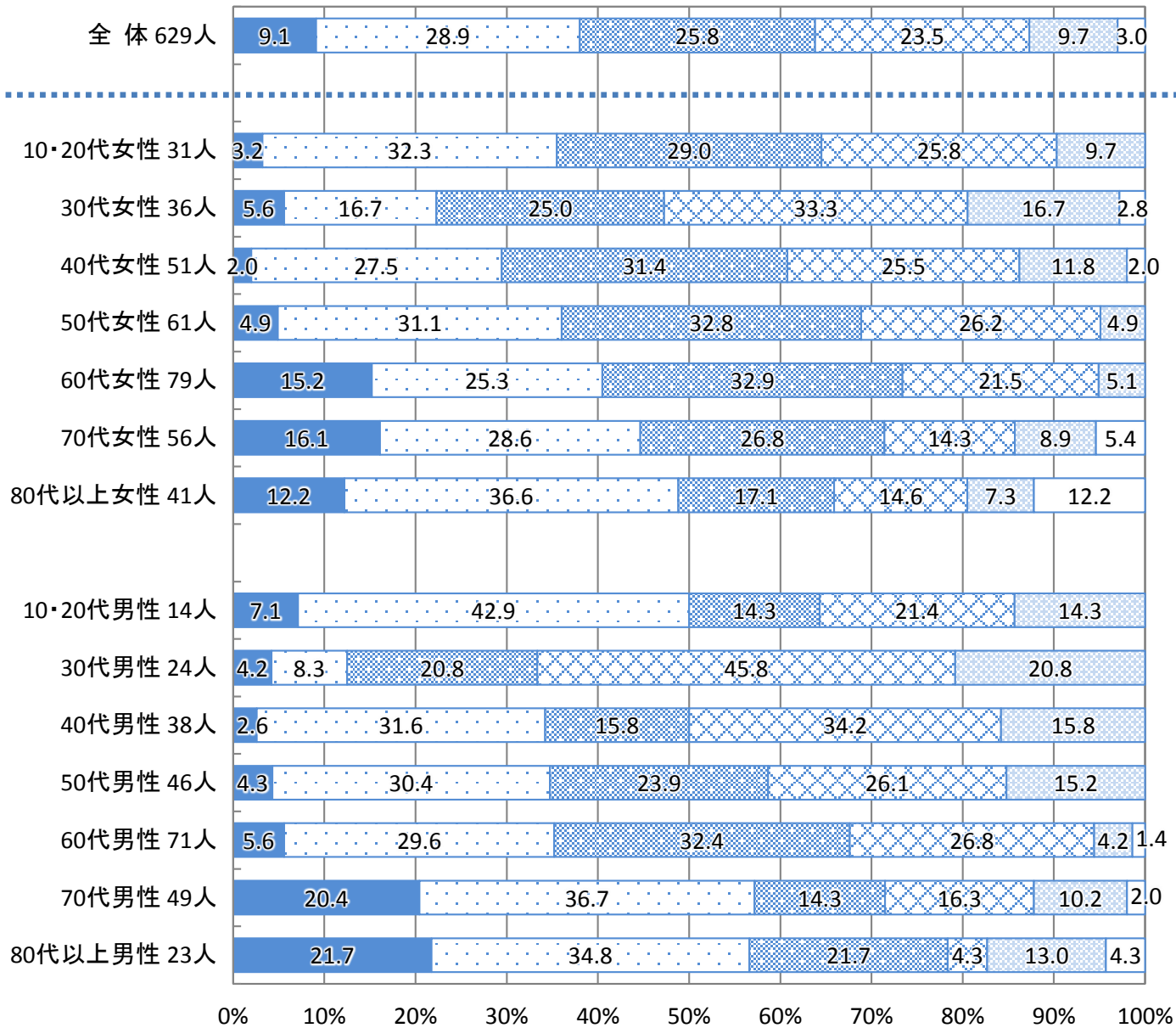
『賛成率』は女性37.5%、男性39.7%となっており、男性が2.2ポイント高いが、『反対率』は女性51.2%、男性47.6%となっており、女性が3.6ポイント高い。

未婚の『賛成率』は女性21.7%、男性28.2%、反対率は女性67.4%、男性52.2%と『賛成率』が3割未満と低いが、既婚では『賛成率』は女性40.8%、男性40.7%、『反対率』は50.6%、男性47.3%と『賛成率』が上昇し、『反対率』が低下している。。

80代以上では、『賛成率』が女性48.8%、男性56.5%、『反対率』は女性31.7%、男性26.0%と『賛成率』が高いが、30代では、『賛成率』が女性22.3%、男性12.5%、『反対率』は女性58.3%、男性66.6%と『反対率』が『賛成率』の倍以上高くなっている。

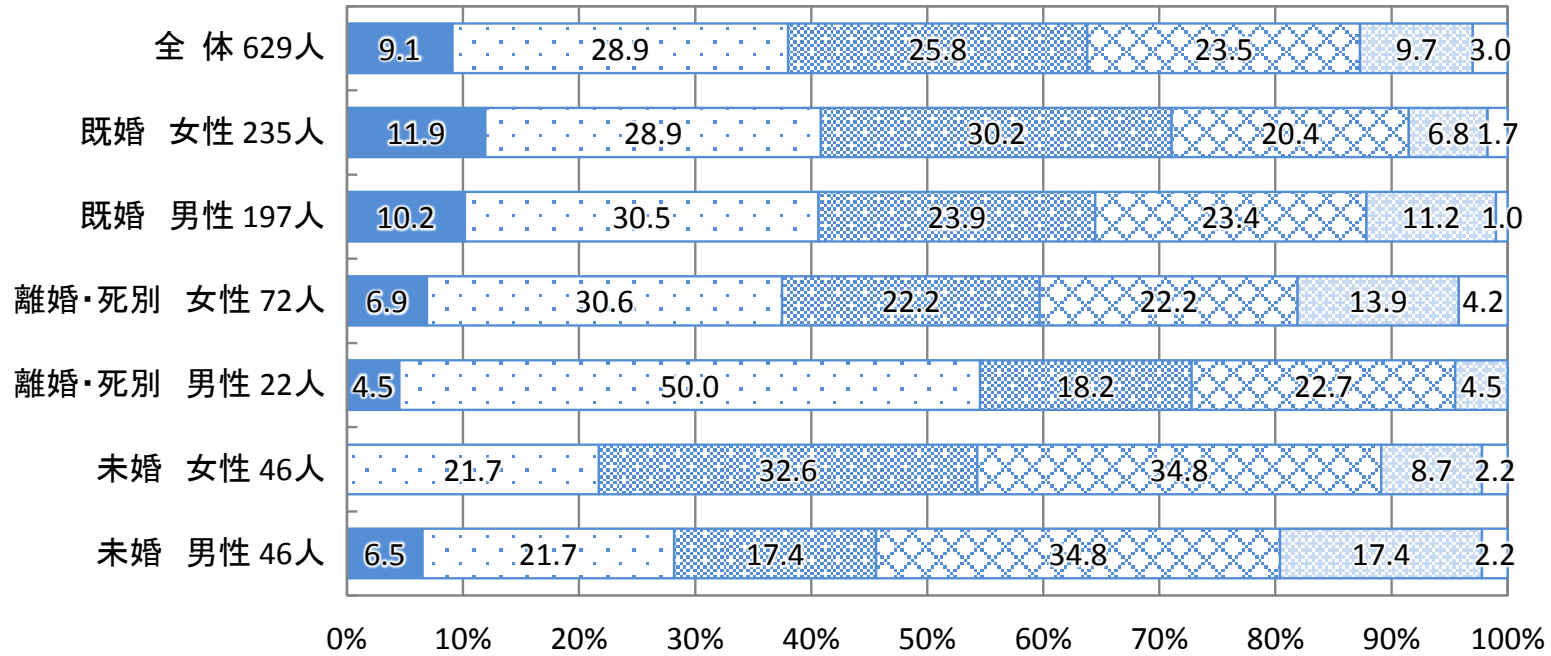
問1-(3) 女性は結婚したら、家庭を中心に考えた生活をした方がよい

■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 ■ わからない □ 無回答



問1-(3) 女性は結婚したら、家庭を中心に考えた生活をした方がよい

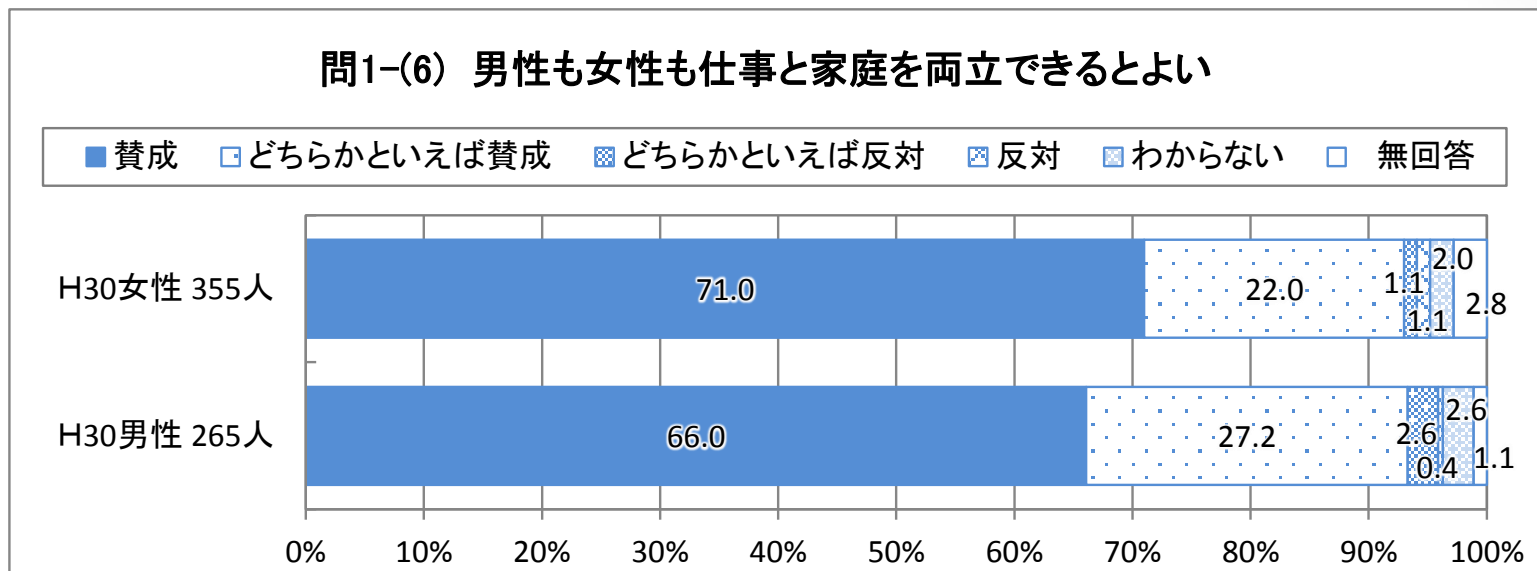
■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 ■ わからない □ 無回答



既婚者や年齢が高い層では「女性は結婚したら、家庭を中心に考えた生活をした方がよい」という考える人が多い傾向が見られる。

<市民意識調査>

「男性も女性も仕事と家庭を両立できるとよい」という考えについて



『賛成率』は女性93.0%、男性93.2%で、男女共に9割を超えている。

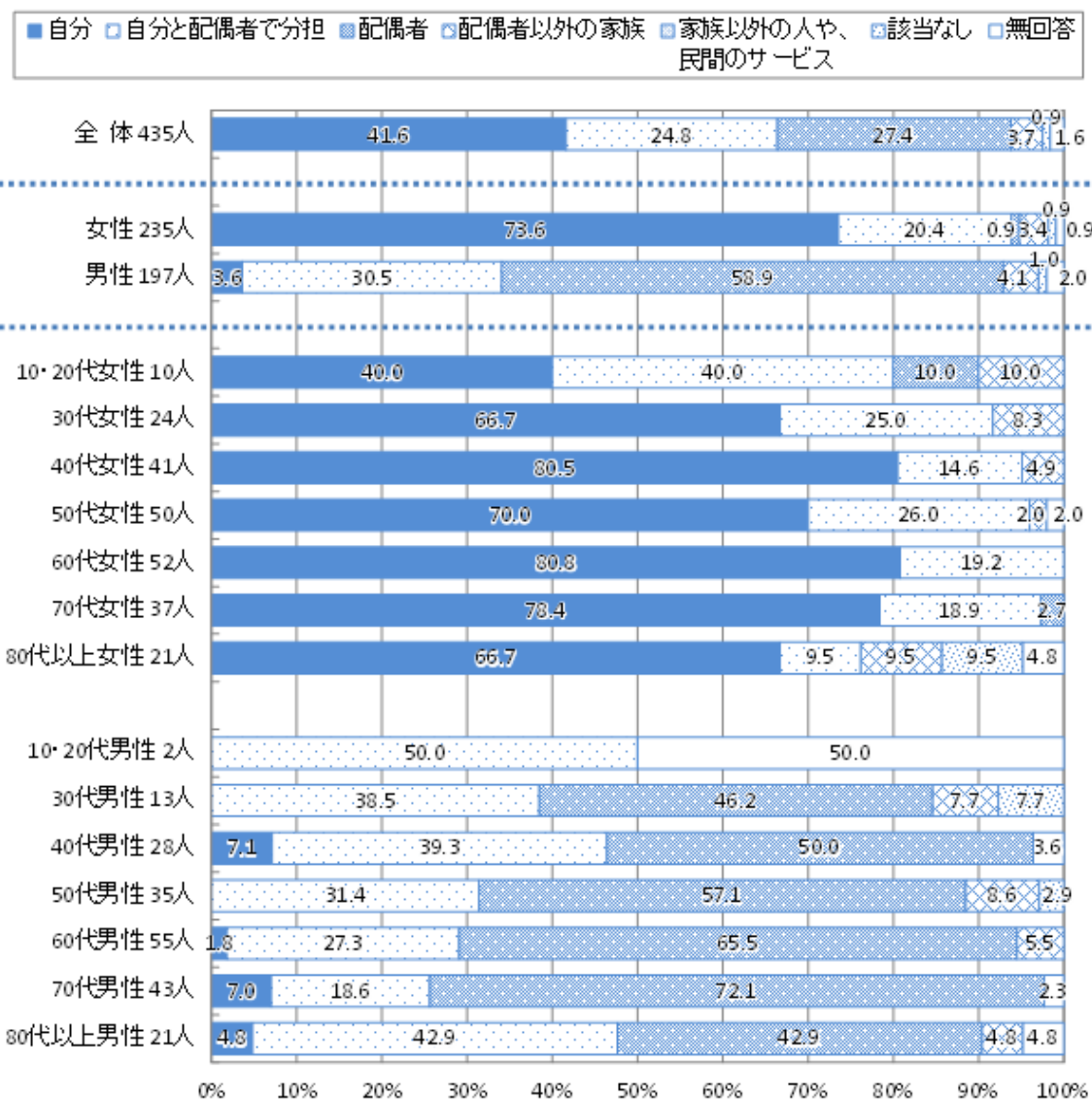
年代別でも、どの年代も『賛成率』の割合が高く、性別や年代に関わらず、「男性も女性も仕事と家庭を両立できるとよい」という意識が高い傾向が見られる。

家庭での男女共同参画

< 市民意識調査 >

【既婚者のみ】あなたの家庭で、生活に必要な家事などは、おもに誰の役割ですか。（掃除・洗濯）

問2-(1) 掃除・洗濯の役割

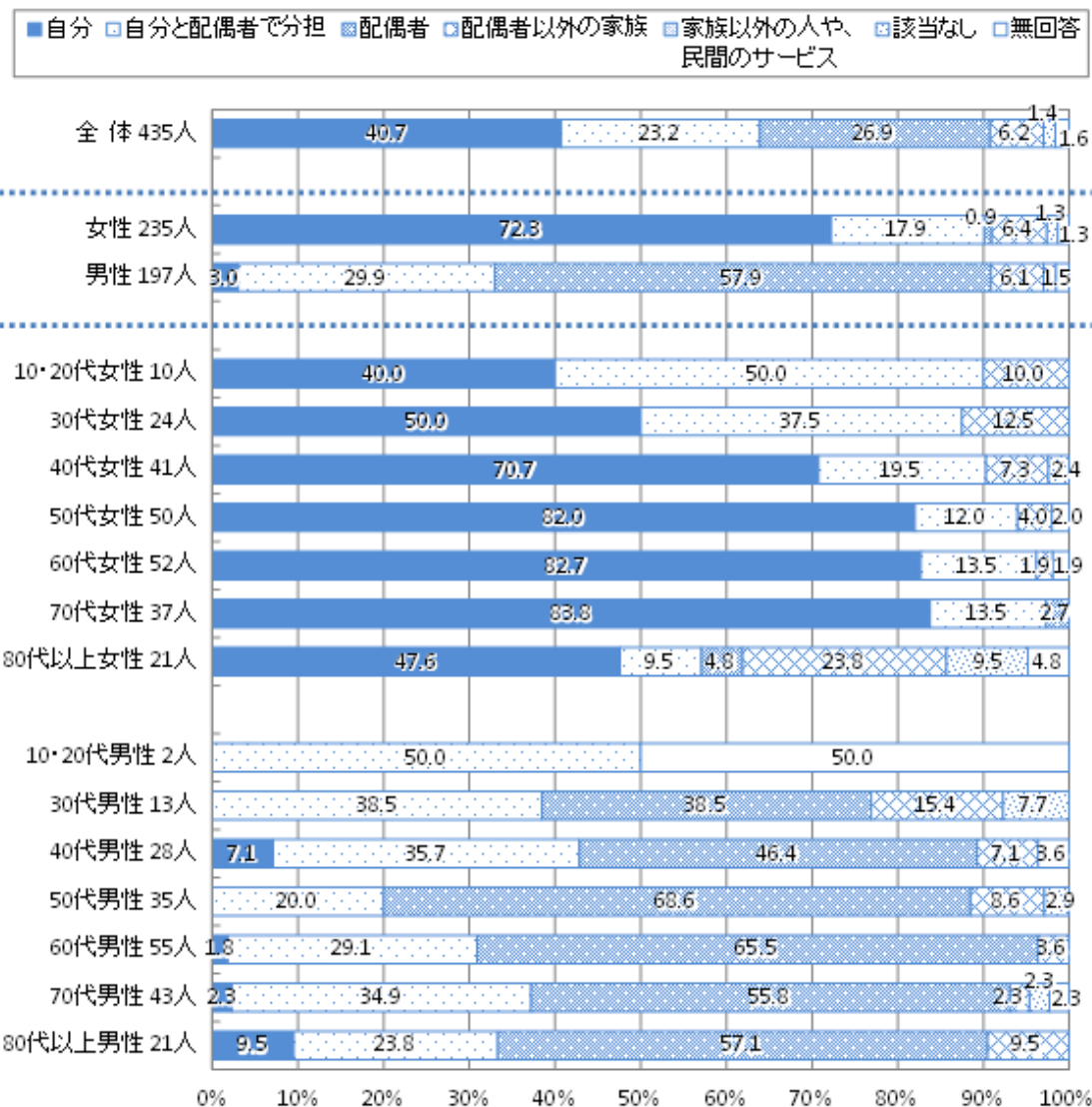


男女別では、『自分』女性73.6%、男性3.6%と、女性が男性より70.0ポイント高くなっている。

年代別でも、ほとんどの年代で女性の『自分』が最も高くなっており、「掃除・洗濯」の役割は、女性が担っている傾向が見られる。

【既婚者のみ】あなたの家庭で、生活に必要な家事などは、おもに誰の役割ですか。（食事の準備・後片付け）

問2-(2) 食事の準備・後片付け

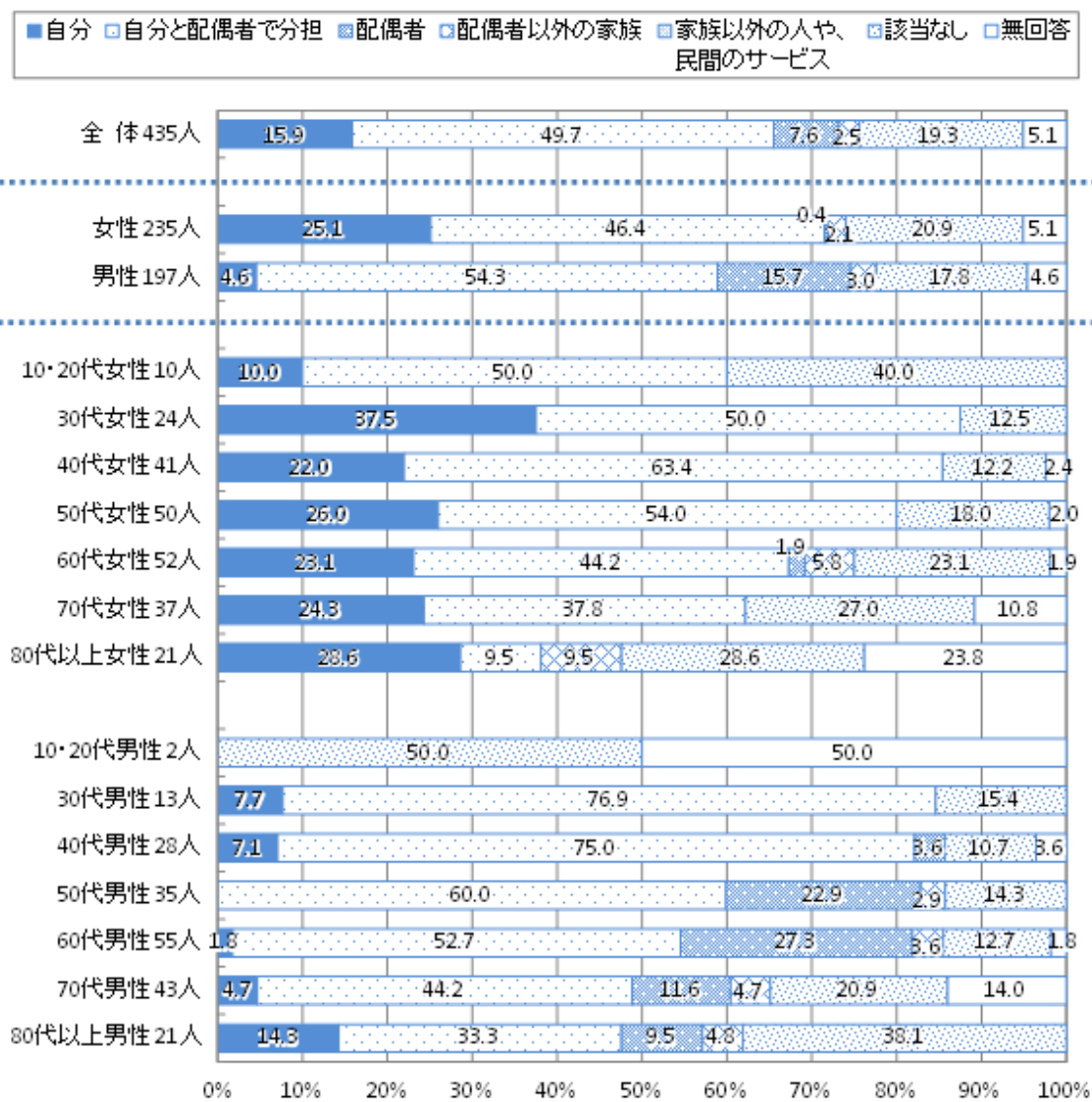


『自分』女性72.3%、男性3.0%、『配偶者』女性0.9%、男性57.9%となっており、食事の準備・後片付けは、女性が役割をっている傾向が見られる。

女性は70代までは、年代が上がるにつれて『自分』の割合が高くなり、男性は40代以上で『配偶者』の割合が最も高くなっている。

【既婚者のみ】あなたの家庭で、生活に必要な家事などは、おもに誰の役割ですか。（子どもの世話・しつけ）

問2-(7) 子どもの世話・しつけの役割

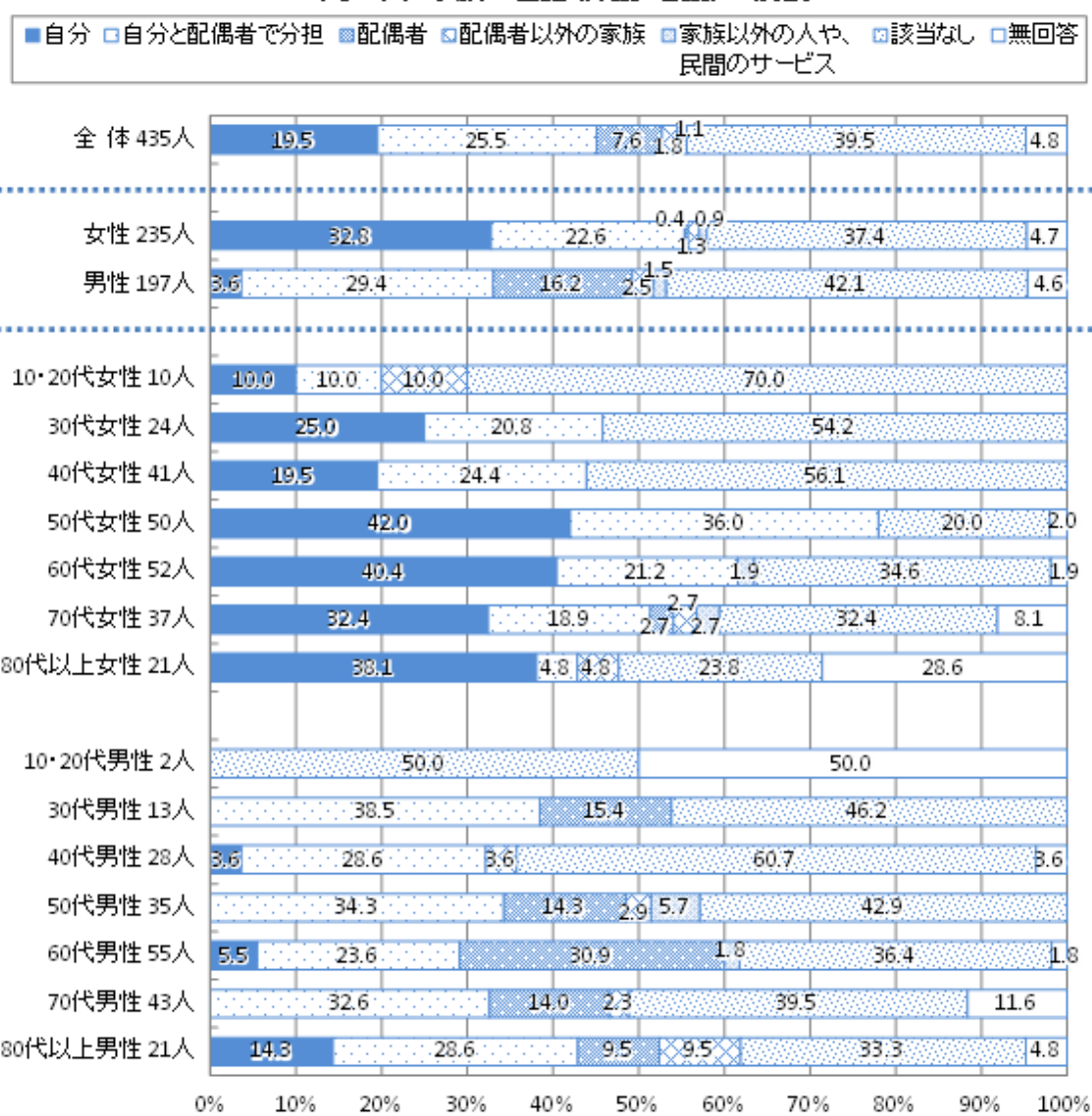


男女とも『自分と配偶者で分担』が最も高く、女性46.4%、男性54.3%となっているものの、次いで女性は『自分』が25.1%、男性は『配偶者』が15.7%と、女性の役割と考える人が多い傾向が見られる。

『自分』と答えた割合は、30代女性37.5%が最も高くなっており、いずれの年代でも男性より女性の割合が高くなっている。

【既婚者のみ】あなたの家庭で、生活に必要な家事などは、おもに誰の役割ですか。（介護・看護）

問2-(9) 家族の世話(介護・看護)の役割



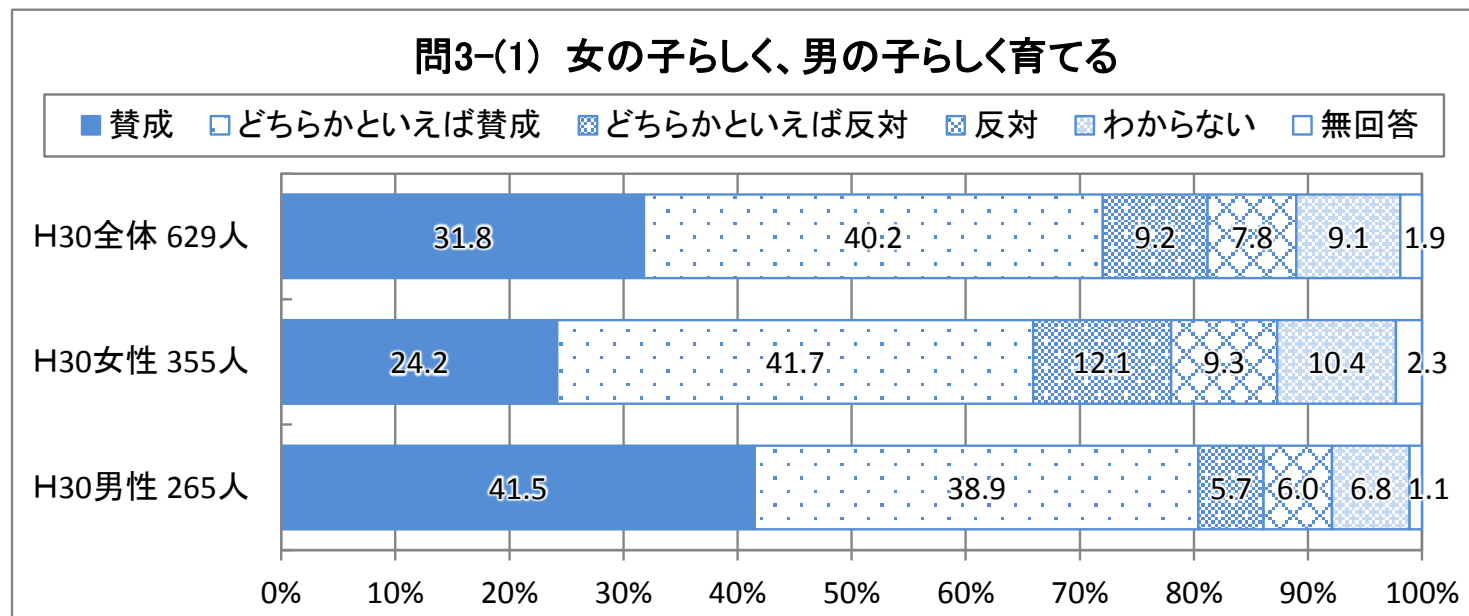
全体では『自分』19.5%、『自分と配偶者で分担』25.5%、合わせると45.0%となり、配偶者と含めた自分の役割との考えが4割を超えている。

男女別では『自分』女性32.3%、男性3.6%と、女性のほうが男性より28.7ポイント高くなっているが、『自分と配偶者で分担』は女性22.6%、男性29.4%と、男性のほうが女性より6.8ポイント高くなっている。

年代別では、女性は40代以外『自分』が『自分と配偶者で分担』より高くなっているが、男性は『自分』が『自分と配偶者で分担』を超えることはない。

また、『配偶者』は女性0.4%、男性16.2%、男性が女性より15.8ポイント高くなっている。

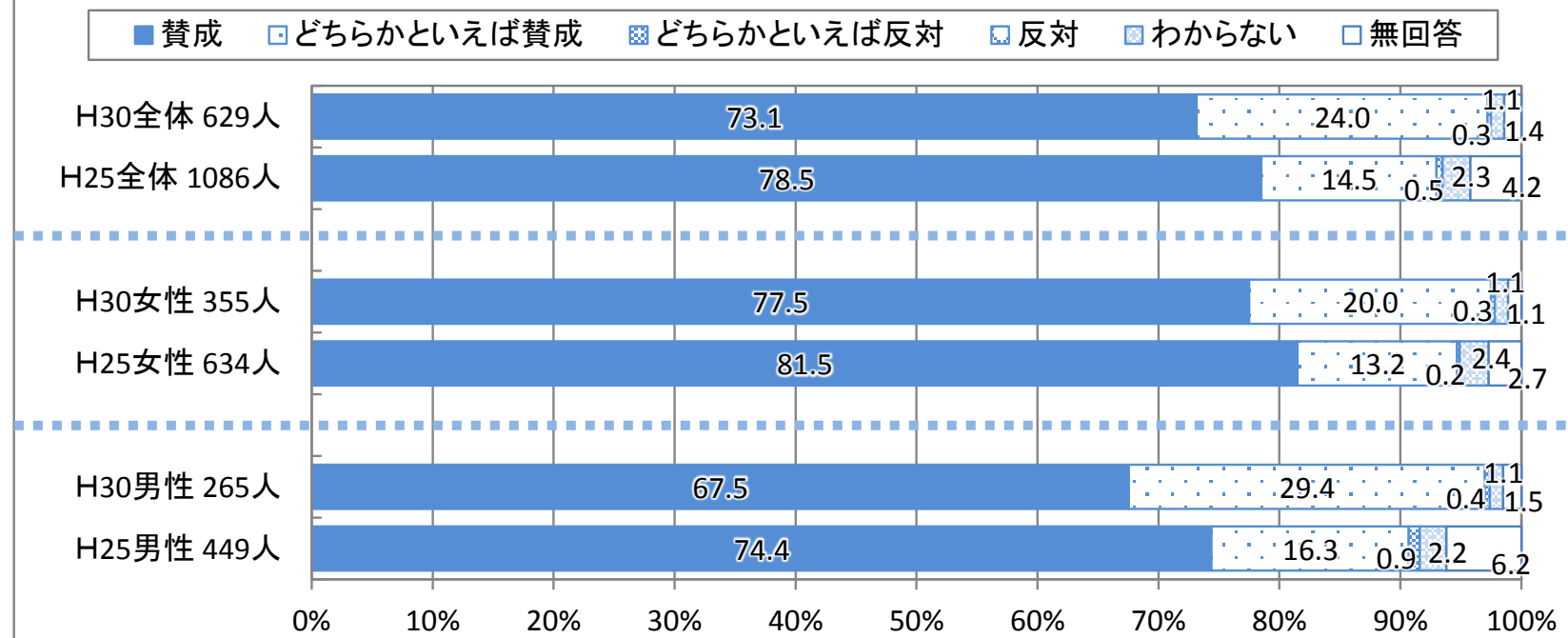
「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方について



『賛成率』は女性65.9%、男性80.4%で、男性が14.5ポイント高い。

「女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てる」という考え方について

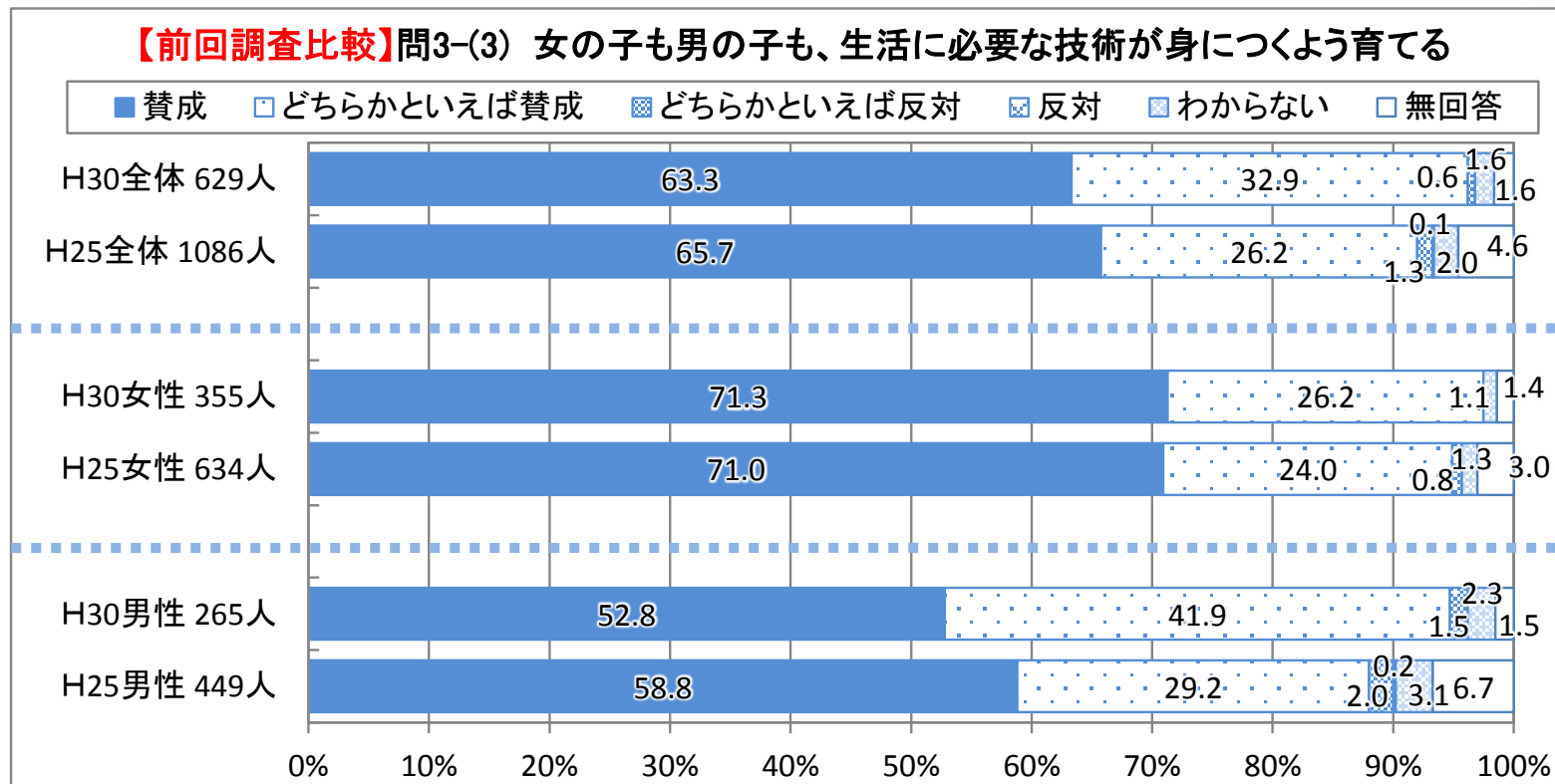
【前回調査比較】問3-(2) 女の子も男の子も、経済的に自立できるように育てる



全体の97.1%が「賛成・どちらかといえば賛成」で、前回調査93.0%から4.1ポイント増加している。

『賛成率』は男女とも9割を超えており、性別による意識の差はほとんど見られない。

「女の子も男の子も、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術が身につくよう育てる」という考え方について

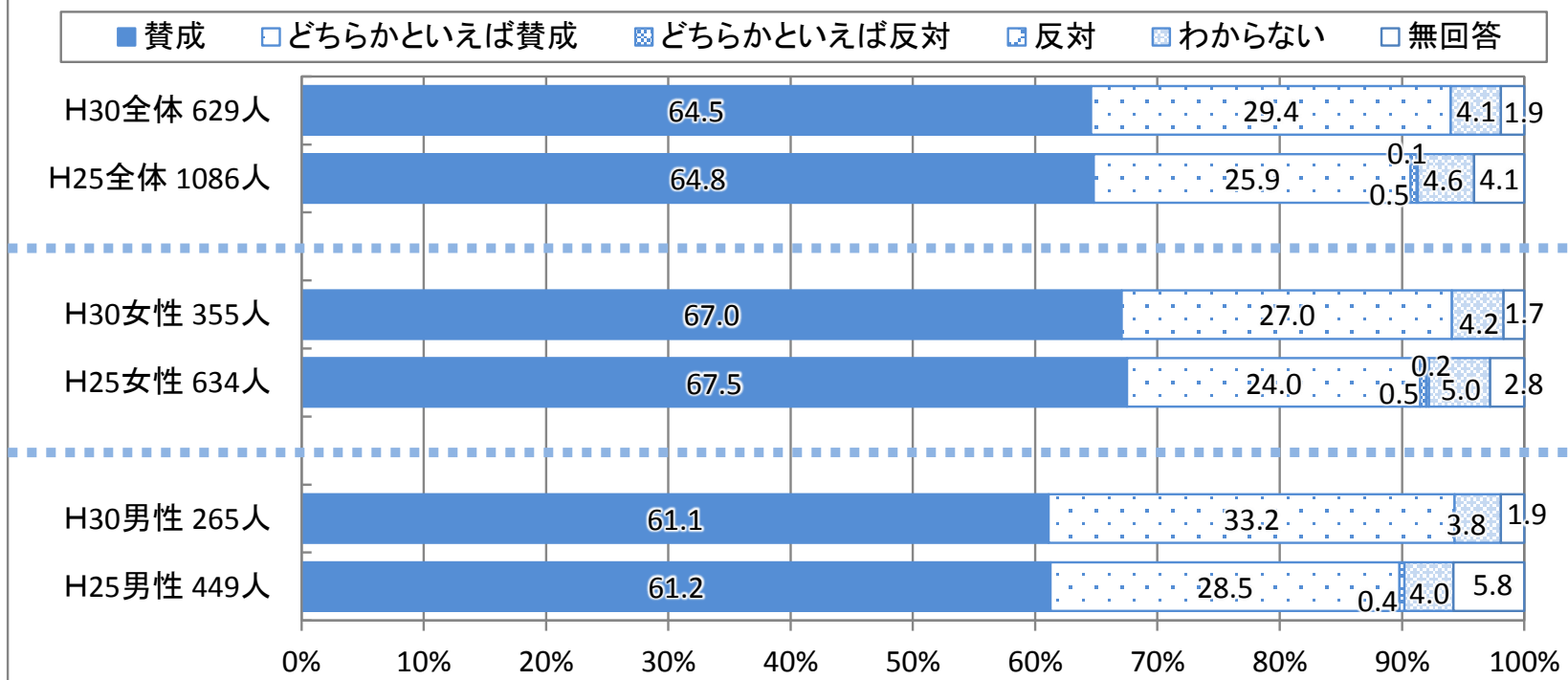


全体の『賛成率』は96.2%で、前回調査91.9%より4.3ポイント増加している。

『賛成率』は男女とも9割を超えており、特に男性では前回調査88.0%から、6.7ポイント増加している。

「女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てる」という考え方について

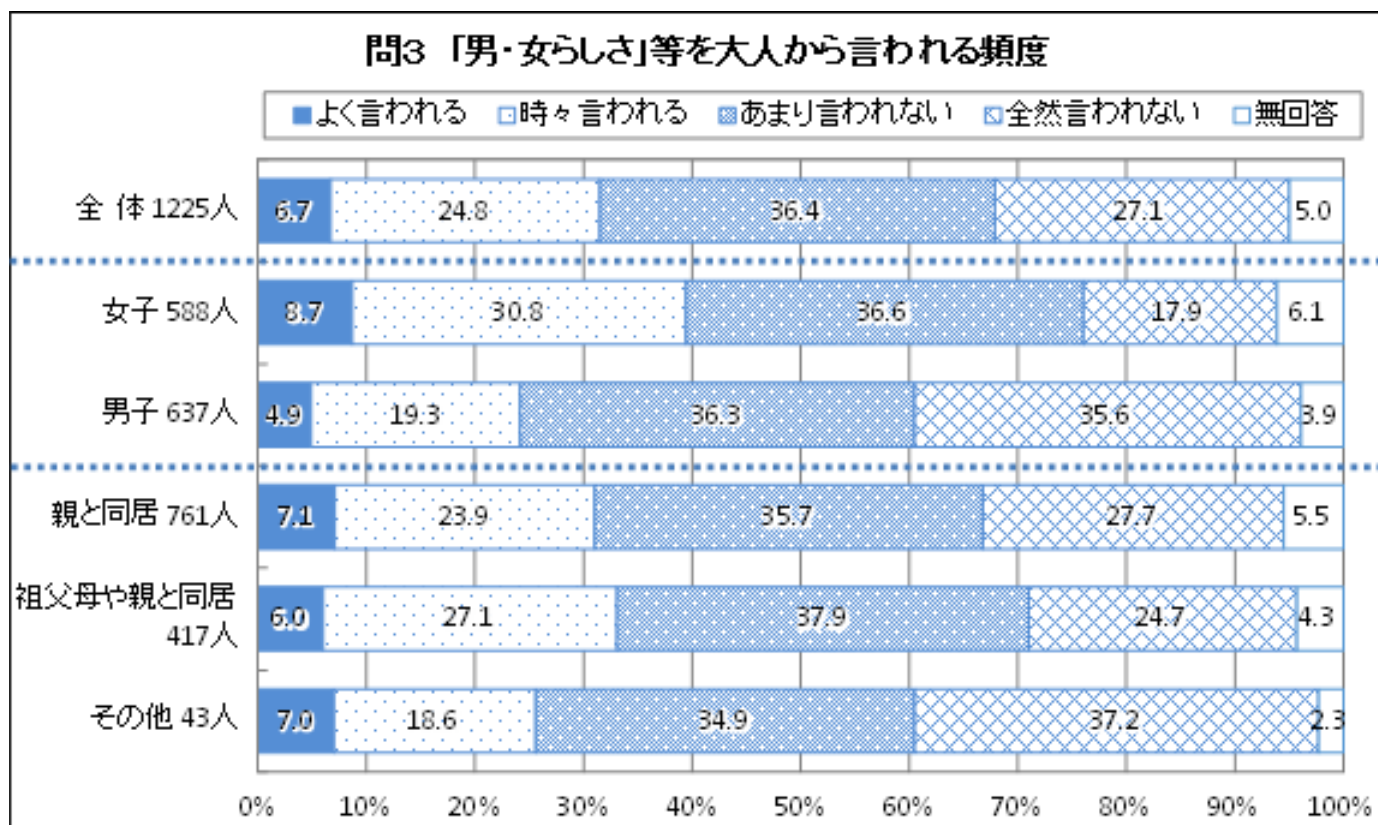
【前回調査比較】問3-(4) 女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を生かして育てる



全体の93.9%が「賛成・どちらかといえば賛成」で、前回調査90.7%より3.2ポイント増加している。

『賛成率』は男女とも9割を超えており、性別による意識の差はほとんど見られない。

大人から「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」「男・女らしく」などと言われる頻度



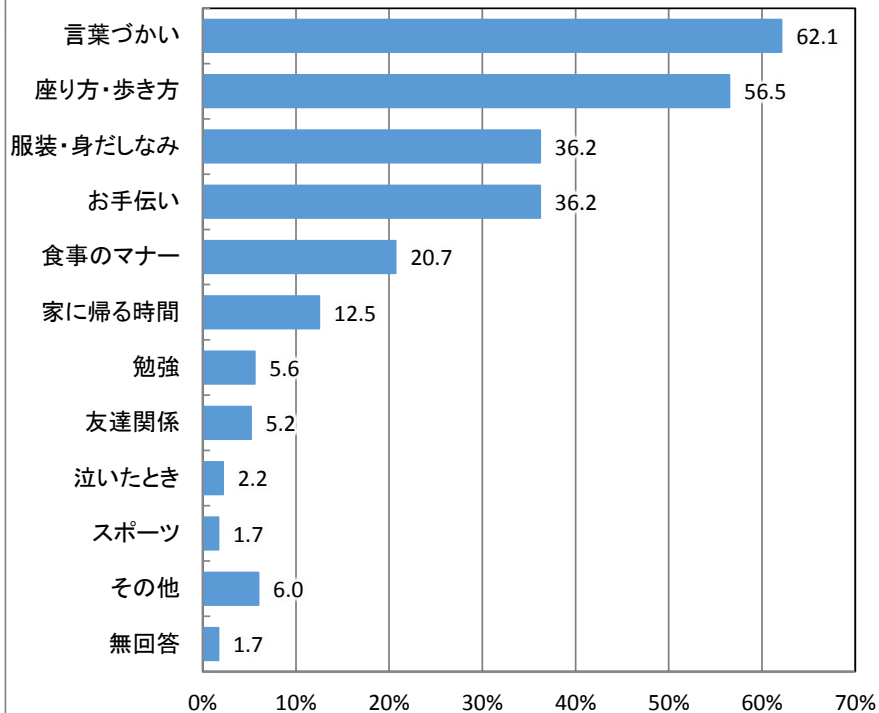
「男・女らしさ」等を大人から言われる頻度について、全体では「あまり言われたい」が36.4%と最も高く、次ぐ「全然言われたい」27.1%と合わせると、6割以上は、ほとんど言われていないことがわかる。

男女別では、「よく言われる」・「時々言われる」の割合は女子が39.5%、男子が24.2%で、女子が男子より15.3ポイント高くなっている。家族構成別では、大きな違いは見られない。

「男らしさ・女らしさ」等の言われた内容（複数回答）

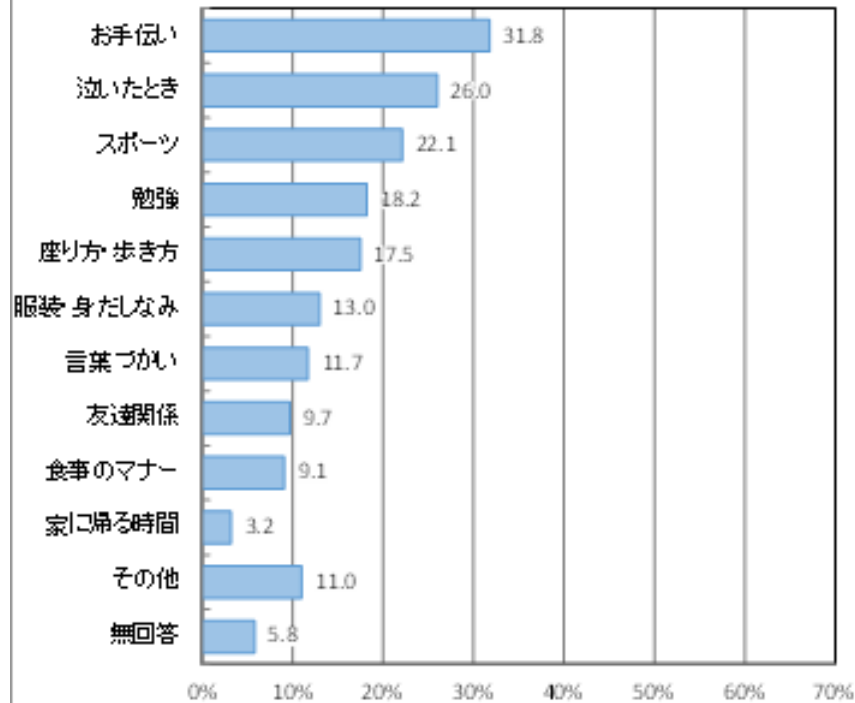
問4 「男らしさ・女らしさ」等の言われた内容(複数回答)

女性 n=232



問4 「男らしさ・女らしさ」等の言われた内容(複数回答)

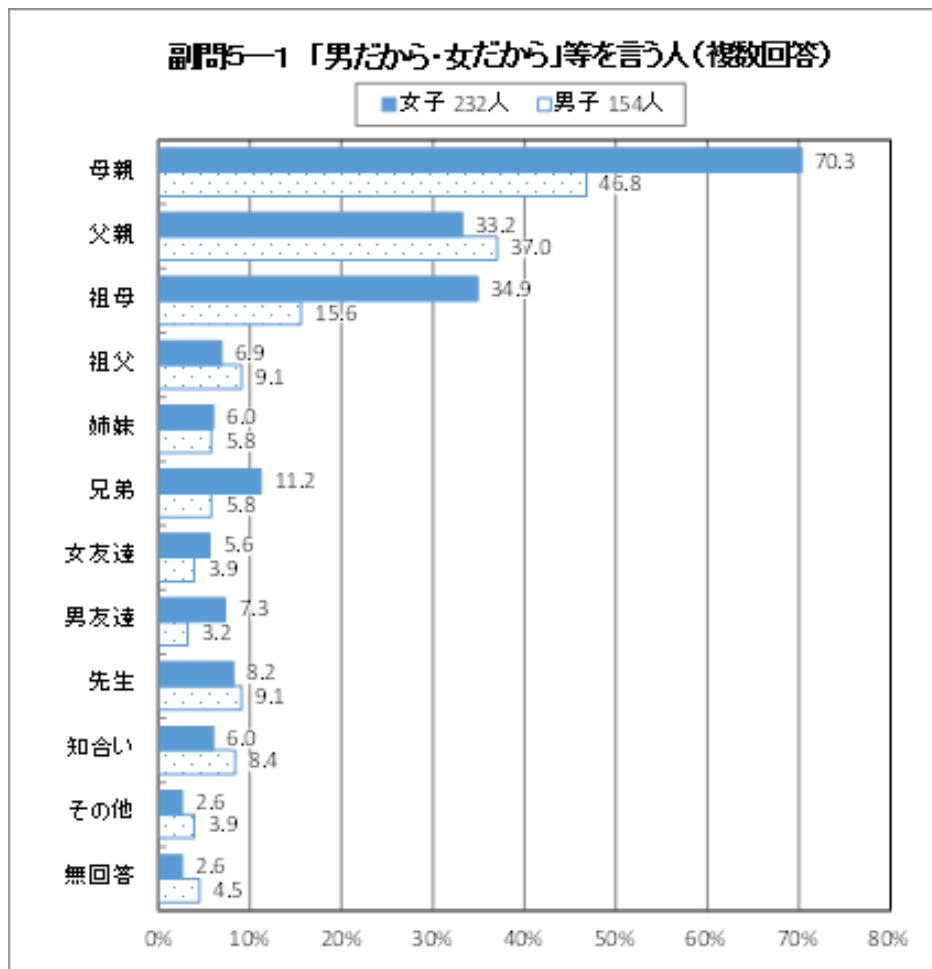
男子 n=154



「男らしさ・女らしさ」等の大人から言われた内容は、女子では、「言葉づかい」の割合が62.1%と最も高く、次いで「座り方・歩き方」56.5%、「服装・身だしなみ」36.2%、「お手伝い」36.2%などに、女らしさを求められていることがわかる。

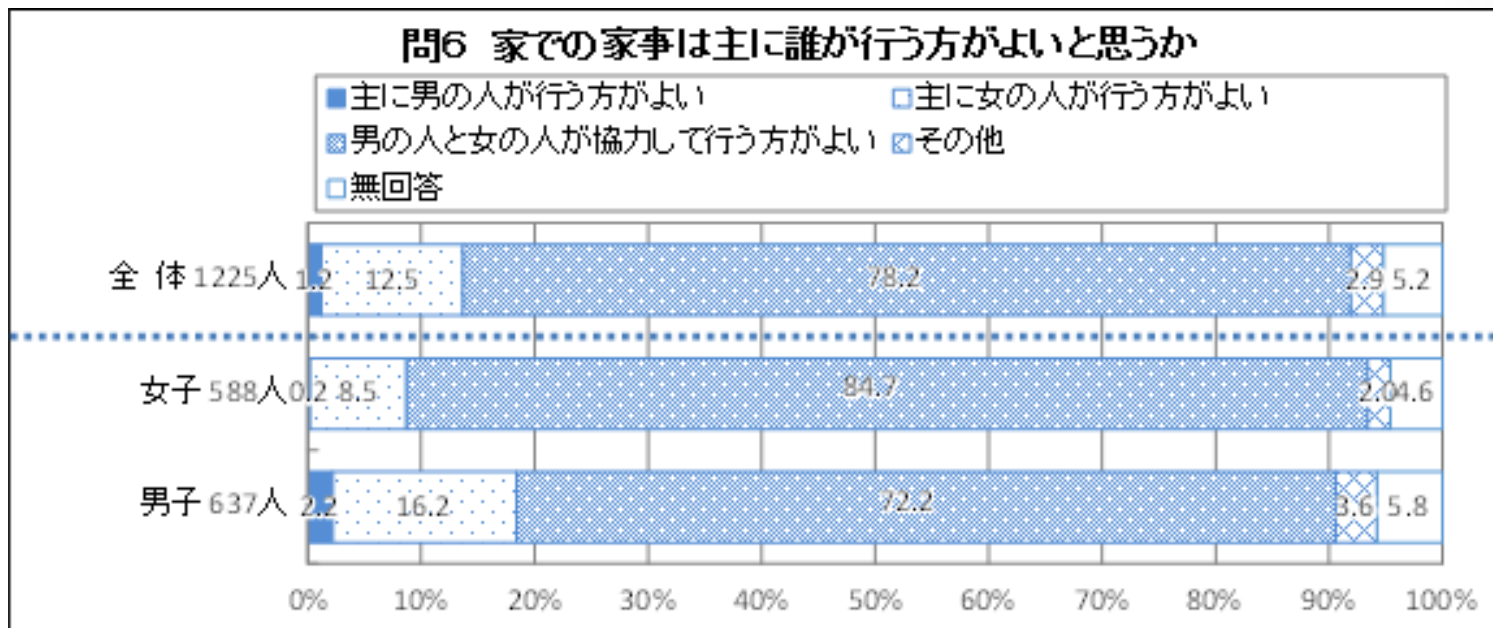
男子では、「お手伝い」の割合が31.8%と最も高く、次いで、「泣いたとき」26.0%、「スポーツ」22.1%、「勉強」18.2%などに、男らしさを求められていることがわかる。

「男だから〇〇しなさい」・「女だから〇〇しなさい」と言う人（複数回答）



「男だから〇〇しなさい」・「女だから〇〇しなさい」と言う人は、男女とも「母親」の割合が最も高くなっており、女子では70.3%と突出しており、男子では46.8%となっている。次いで、女子では「祖母」34.9%、「父親」33.2%、「兄弟」11.2%等、男子では「父親」37.0%、「祖母」15.6%等となっている。

「家事のよいと思う行い方」

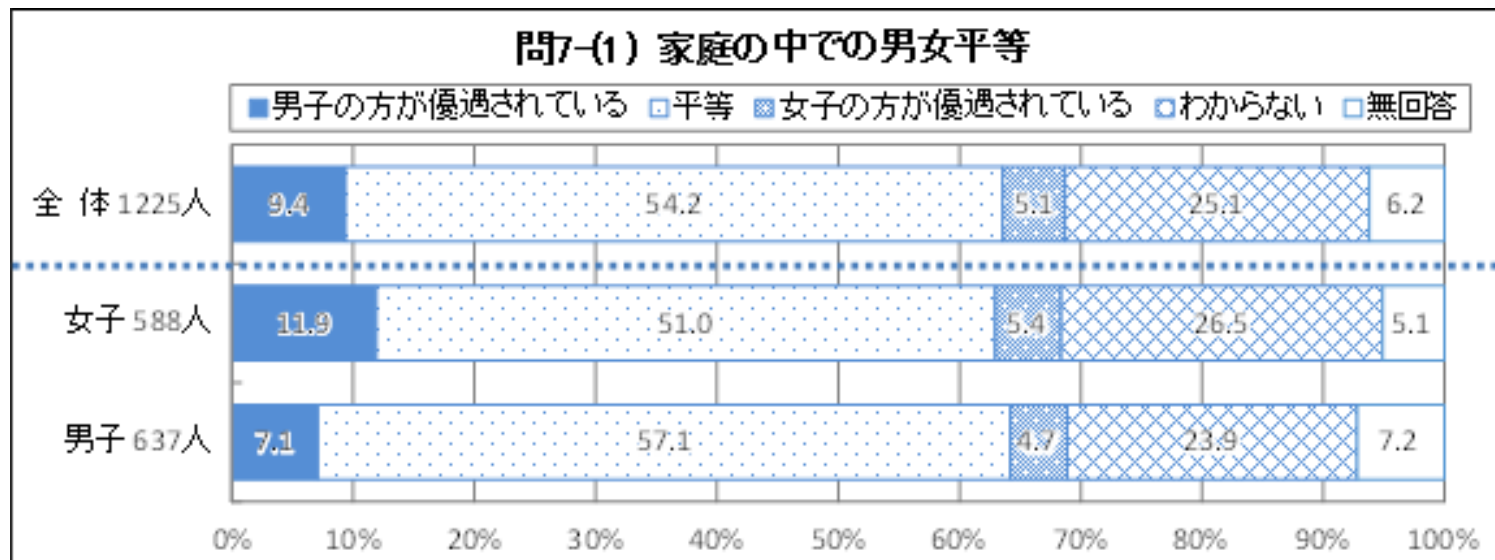


家事は主に誰が行う方がよいと思うかについては、全体では「男の人と女の人が協力して行う方がよい」の割合が、78.2%と突出し高くなっている。

男女別でも、「男の人と女の人が協力して行う方がよい」の割合がそれぞれ最も高くなっているものの、「主に女の人が行う方がよい」が女子8.5%、男子16.2%と、男子が7.7ポイント高くなっている。

< 中学生意識調査 >

今の社会では、男女は平等になっていると思うか（家庭の中での男女平等）



家庭の中での男女平等について、全体では「平等」の割合が最も高く54.2%となっており、次いで「わからない」25.1%、「男子の方が優遇されている」9.4%、「女子の方が優遇されている」5.1%等となっている。

男女別でも、概ね同程度の割合となっている。

男女平等ではないと思う場面について、〈家庭の中〉では、料理や洗濯などの家事（81人）が最も多く、物事を決めるとき（15人）、きょうだい関係（6人）、お金を管理する時（5人）等が挙げられていた。

（次ページ参照）

家事に関する記述 (81)	
女子の意見 (59人)	・女の子だから家事はできないといけないなど、手伝いをよくさせられたりする。
	・家事のときに女だけしていることが多そう。
	・ごはんの準備や掃除、家のこと全般
	・家事・育児をしないといけないから。
	・母も仕事をしているが、家事は母が行うから。
男子の意見 (22人)	・ごはんや掃除は女の人がしているから。
	・父は動かず、母だけいつも動いている。
	・家事は母がやる。共働きなのに。
	・家事をする人は女性が多い。助け合うべき。
男子の意見 (22人)	・家事や料理は女性が行うことが多いということ。
	・女性が家事するのが普通と認識する男性が多い。
物事を決めるときに関する記述 (15)	
女子の意見 (12人)	・父は大黒柱だから父の許可が出ないといけない。
	・お父さんがずっと指示をしている。
男子の意見 (3人)	・男の人が家庭の中では上だから。
きょうだい関係に関する記述 (6)	
女子の意見 (2人)	・お兄ちゃんは何も頼まれ事をされないのに、私は何でもお願いされる。
男子の意見 (4人)	・自分にはとても厳しいのに、妹たちには優しくすぎる。
お金の管理に関する記述 (5)	
女子の意見 (2人)	・何か買ってもらうとき
男子の意見 (3人)	・男の人がいつも一生懸命働いてもらっているお金なのに、今月のおこづかいなどで使える量が制限される。
その他の記述 (36)	
女子の意見 (14人)	・家庭内での役割を押しつけられている母を見たとき
	・「かせいでいるから」とか言って男が上みたいな感じ
男子の意見 (22人)	・父親はがんばっているから、〇〇しなくていいのとか
	・女性が家庭内の事については強いと思うから

■ワークショップでの意見（家庭について）

・男女共同参画に関してプラスの変化を感じる点

男性も家事をするように、育児・介護にも参加。

主な意見

- *家事・炊事は男女共にやるのが当たり前になってきている
- *男性もずいぶん家事に参加してくれる
- *お父さんが赤ちゃんをおんぶしたり、だっこひもをしたりしている
- *男性も介護をしている

・男女共同参画社会実現のために解決すべき課題

性別による家庭での役割意識が根付いている

主な意見

- *男子たるもの厨房に立たずという考えがある
- *女のくせにそんな遅く帰って来て...「仕事上の飲み会」（仕事上の飲み会であっても、「女のくせにそんな遅く帰って来て...」と言われる）
- *家庭のことで仕事を休むのは女性
- *家事・育児は女性の仕事のように言われる
- *家事は女の仕事だという男性がいまだに多い
- *家庭での酒席、男はすわり、女は台所がほとんど
- *男の子と女の子を区別して子育てしている（例えば女の子には食事の用意をさせている）

■ワークショップでの意見（家庭について）

- ・課題解決のために住民や企業、行政が取り組むこと

お互いを尊重した意識・行動

主な意見

- *得意な仕事を手伝う
- *仕事を言い訳にしないで家事を手伝う
- *お好きにどうぞという姿勢が必要
- *相手の様子を感じながら動く
- *お互いに話し合う、意見を交換する
- *お互いに尊敬しあう
- *（子育てなど）いろいろな考え方を認める

子どもへの男女共同参画の意識づくり

主な意見

- *子供には食事の用意をするときにできることをさせてみる・楽しみに体験させてみる
- *親が家事を分担すれば子供がそれを見て育つ
- *家族で役割分担する

地域での男女共同参画

< 市民意識調査 >

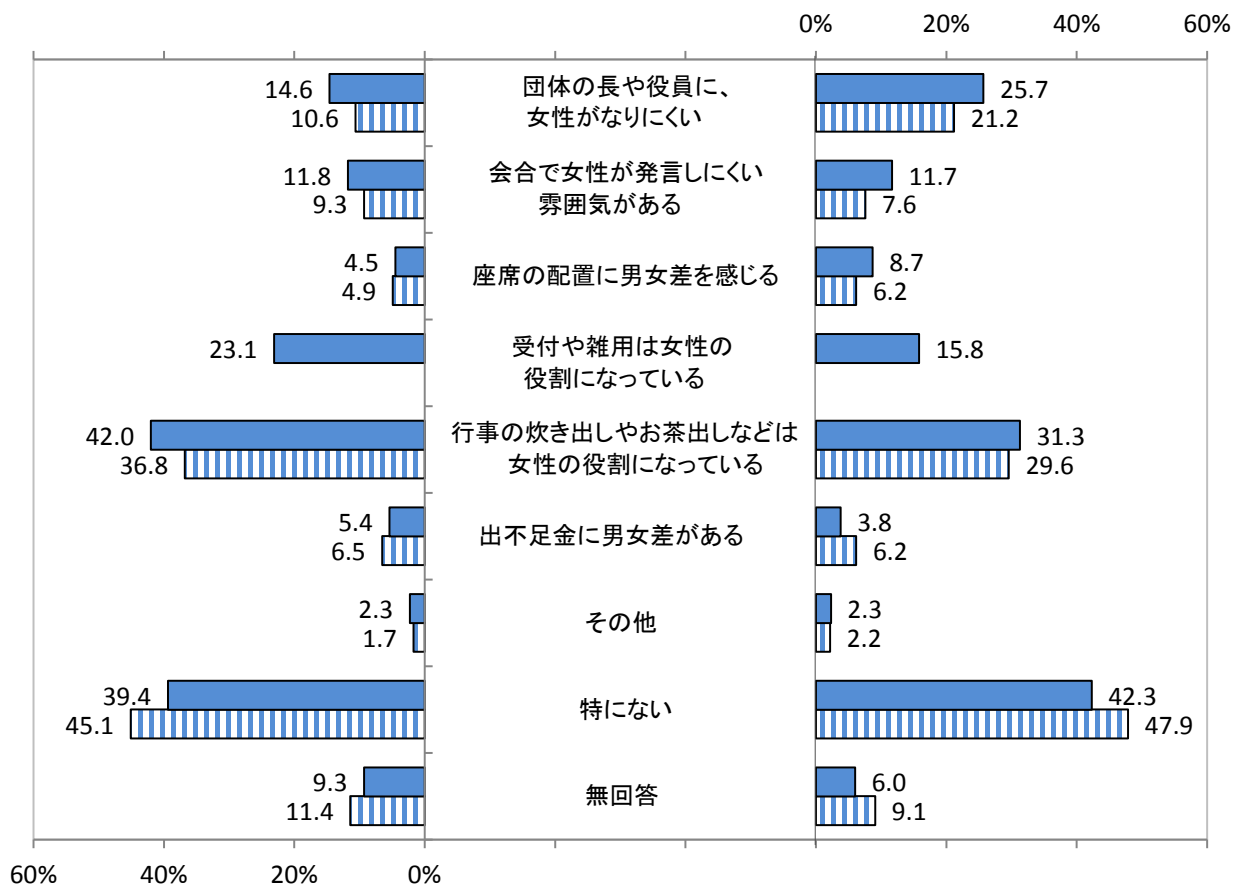
あなたが住んでいる地域で、男女差を感じるような慣習や慣行がありますか。

【前回調査比較】問15 男女差を感じるような地域の慣習や慣行があるか
(複数選択)

■ H30女性 355人 ■ H25女性 634人 ■ H30男性 265人 ■ H25男性 449人

女性

男性



男女差を感じるような慣習や慣行は、「特にない」が女性39.4%、男性42.3%となっており、女性は前回調査より女性5.7ポイント、男性5.6ポイント減少している。

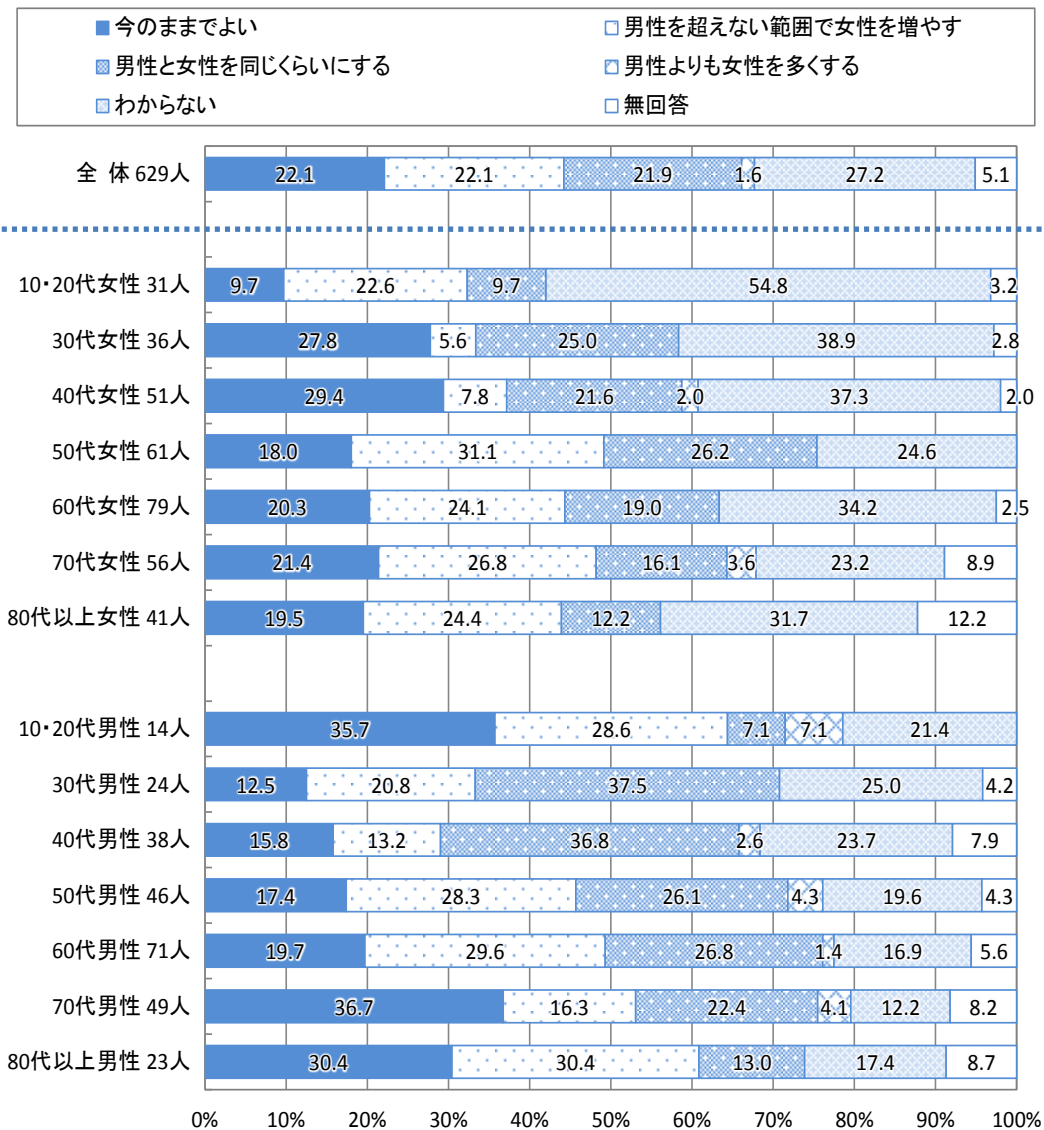
一方「行事の炊き出しやお茶出しなどは女性の役割になっている」は女性42.0%、男性31.3%が感じていて、前回調査より女性5.2ポイント、男性1.7ポイント増加している。

※「受付や雑用は女性の役割になっている」は、H30から追記された

< 市民意識調査 >

あなたは次の役職で、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。（駐在員）

問16-① 駐在員の女性割合



○現状値 (H30. 3. 31)
361人中、女性6人 (1.7%)

※ () 内は委員等に占める女性の割合

全体では、「今のままでよい」22.1%、「男性を超えない範囲で女性を増やす」22.1%、「男性と女性を同じくらいにする」21.9%が、同程度の割合となっている。

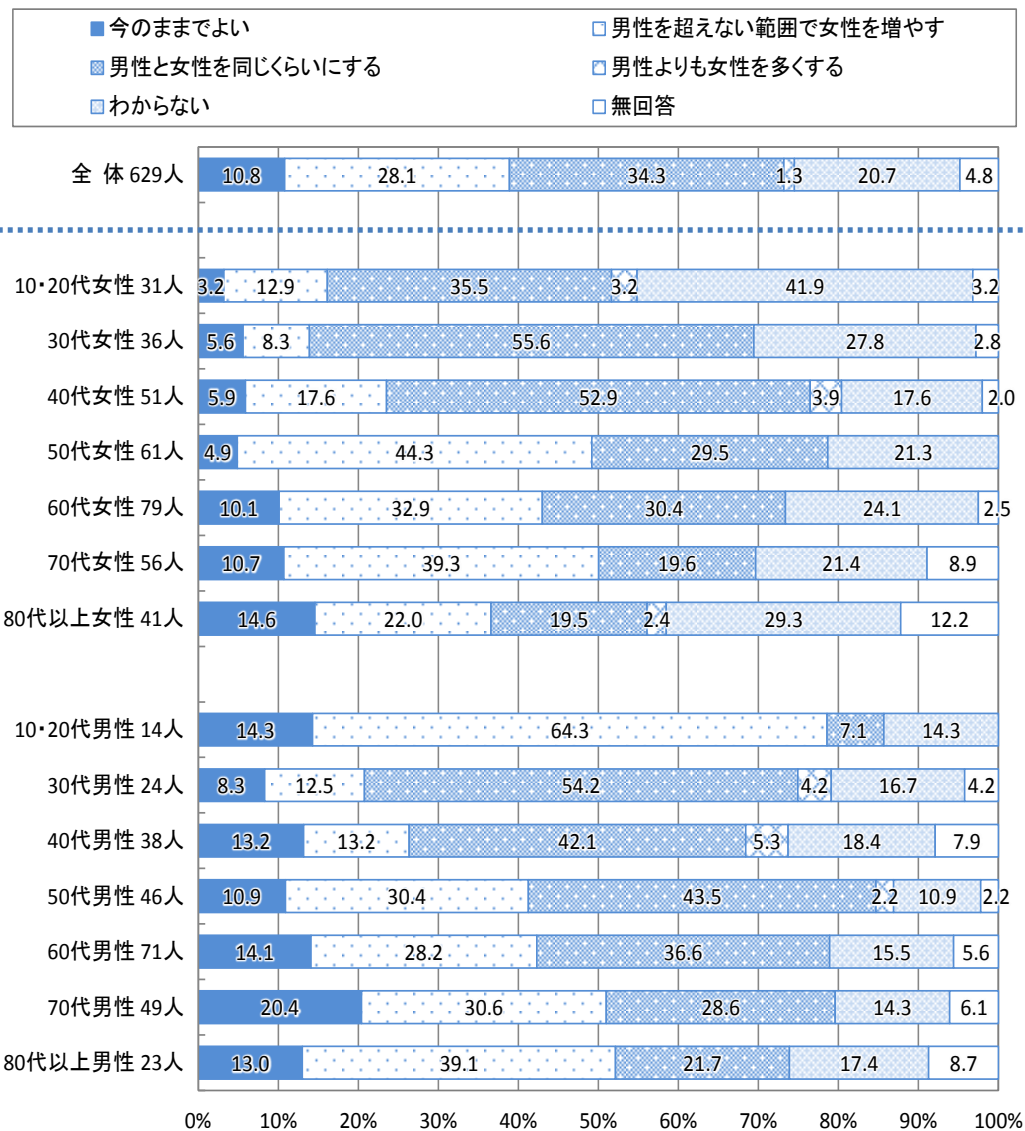
性別・年代別にみると、女性は30代から40代で「今のままでよい」の割合が他の年代と比べて高くなっているが、「男性と女性を同じくらいにする」と考える割合も同程度である。一方男性は、10・20代と70代以上で「今のままでよい」とする割合が最も高くなっている。

「男性と女性を同じくらいにする」と考える割合は、50代を除く30代以上で、女性より男性が多い傾向が見られる。

< 市民意識調査 >

あなたは次の役職で、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。（市議会議員）

問16-② 市議会議員の女性割合



○現状値 (H30.3.31)

30人中、女性2人 (6.7%)

※ () 内は委員等に占める女性の割合

全体では、

「男性と女性を同じくらいにする」34.3%が最も多く3割を超えており、次いで、「男性を超えない範囲で女性を増やす」28.1%となっている。

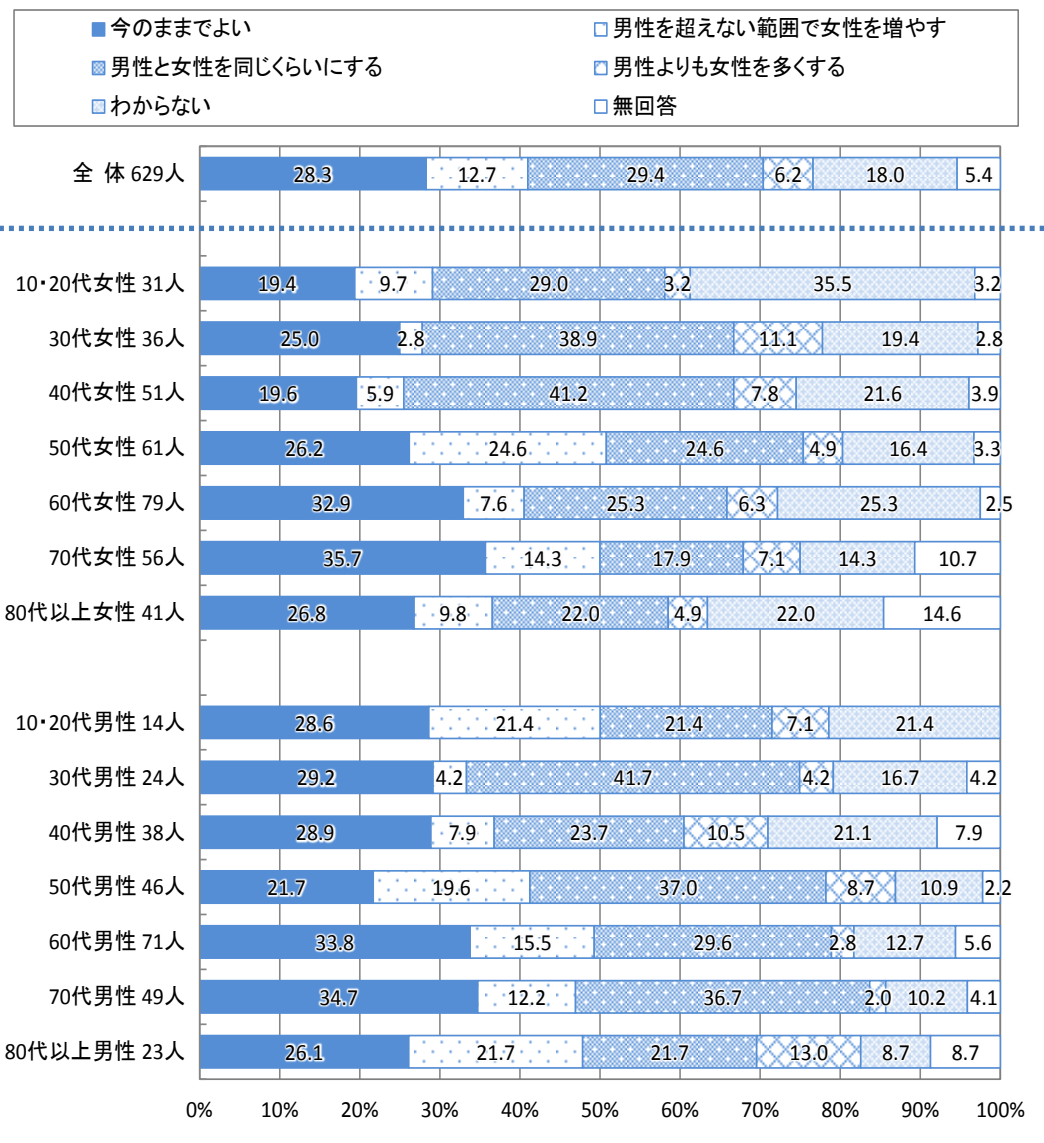
「今のままでよい」は、どの年代も女性より男性のほうが高く、70代男性では20.4%と2割を占めている。

性別・年代別では、30代から40代の女性と、30代から60代の男性において、「男性と女性を同じくらいにする」が4割を超えている。

<市民意識調査>

あなたは次の役職で、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。(民生委員・児童委員)

問16-⑤ 民生委員・児童委員の女性割合



○現状値 (H30.3.31)

335人中、女性164人 (49.0%)

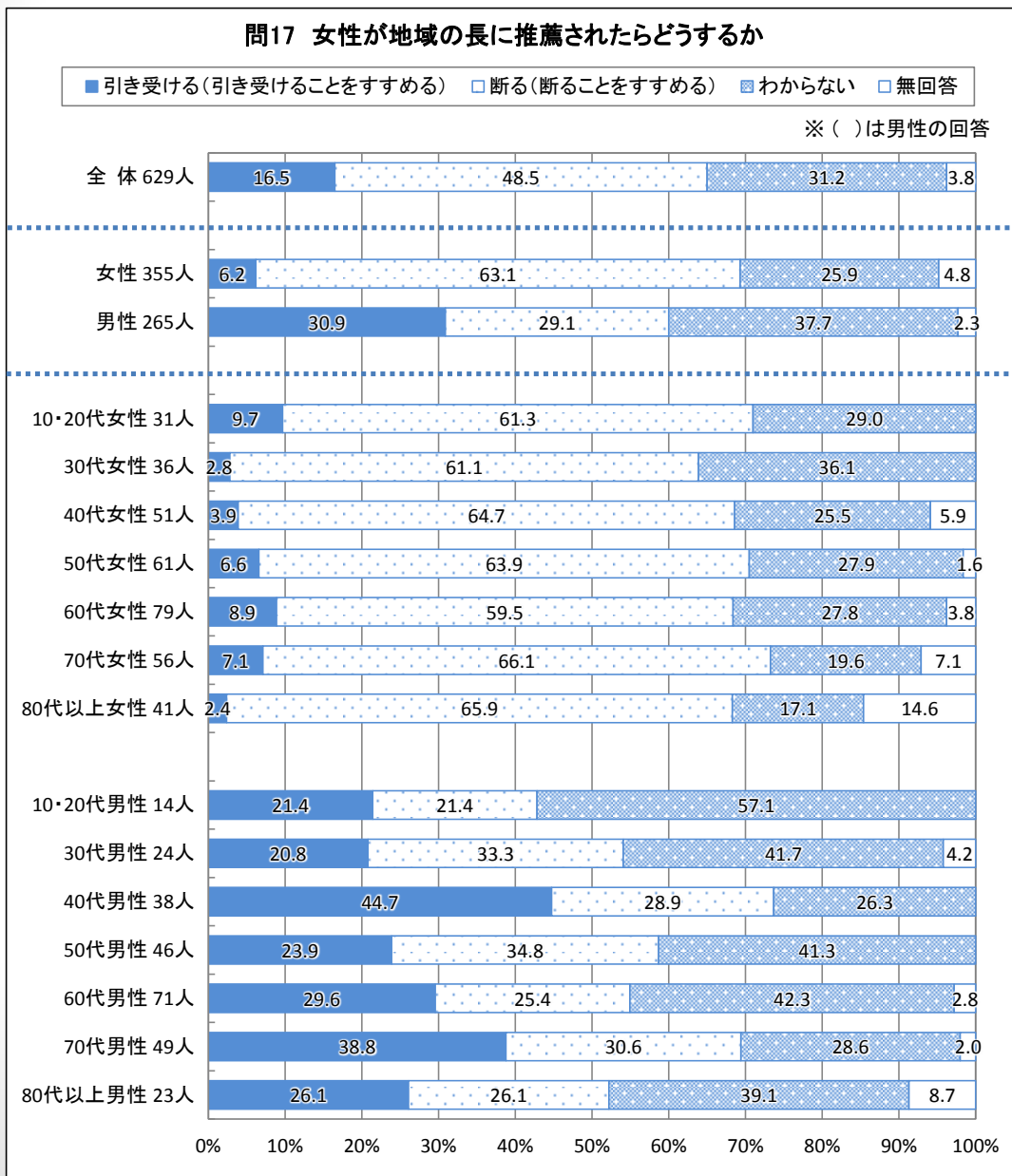
※ () 内は委員等に占める女性の割合

市の現状として民生委員・児童委員の男女比が同程度であることから、全体では「男性と女性を同じくらいにする」29.4%と「今のままでよい」28.3%を合わせた、5割を超える人が、男女比が等しい現状維持を望んでいることがわかる。

性別・年代別にみると、50代女性、80代以上の男性において「男性を超えない範囲で女性を増やす」が2割を超えて高くなっている。

< 市民意識調査 >

【女性に対して】あなたが地域の役員（区長など）に推薦されたらどうしますか。
【男性に対して】配偶者などの身近な女性が長に推薦されたらどうしますか。



女性では、「断る」が最も高く63.1%と6割を超えている。「引き受ける」は6.2%と、1割も満たない。

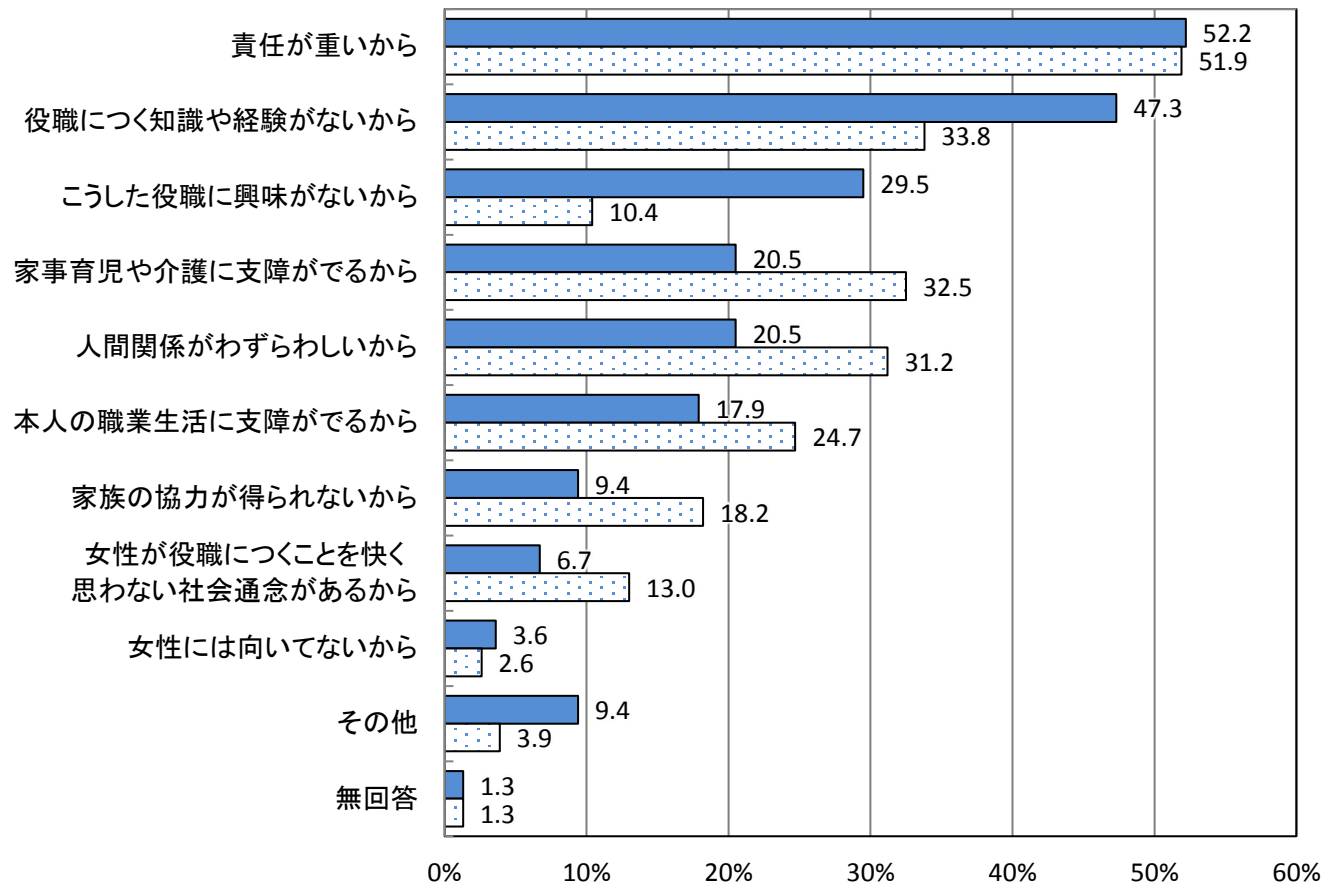
一方男性では、「わからない」が37.7%と最も高いものの、「引き受けることすすめる」は30.9%となっており、年代別では40代男性が44.7%と最も高い。

女性が「断る」63.1%に対して、男性「断ることをすすめる」29.1%と34.0ポイントの3割程度の差があり、男女間での意識の違いが見られる。

地域の役員（区長など）の推薦を断る（断ることをすすめる）主な理由

副問17-1 役職の長の推薦を断る理由(3つまで選択)

■ 女性 224人 □ 男性 77人



「責任が重いから」が男女とも最も高く、女性52.2%、男性51.9%と、どちらも5割を超えている。

次いで、「役職につく知識や経験がないから」女性47.3%、男性33.8%となっている。

その他の項目において男性では、「家事育児や介護に支障がでるから」32.5%、「人間関係がわずらわしいから」31.2%が3割を超えている。

■ワークショップでの意見（地域について）

- ・男女共同参画に関してプラスの変化を感じる点

家庭以外でも、家事をする男性像。女性の参画。

主な意見

- *料理教室に男性の参加が多くなった
- *男子トイレに幼児イス有○
- *地域会議のとき、女性出席の罰金がなくなった
- *女性の民生委員が増えた

- ・男女共同参画社会実現のために解決すべき課題

女性の区長や役員の少なさ

主な意見

- *区のあり方 男性優位の感じ 女性の意見は見過ぎされがち
- *地区の長を男性ばかりなので決まるものが偏っているようだ
- *地域のトップ（区長さん）や役員等に女性がいない
- *地域で会議をする際に男女の割合が偏っている
- *地域役員の長などは、男性に頼っている
- *「男女共同参画」が叫ばれ始めた頃は「公民館運営審議委員会」は全体の3割を女性にと市役所から言われていたもので守られていたが、最近ではそれがくずれている
- *政治への女性進出が少ない

■ワークショップでの意見（地域について）

・男女共同参画社会実現のために解決すべき課題

性別による地域での役割意識が根付いている

主な意見

- *会議の出席者（地域・お寺）が偏っている
- *ゴミその他の共同作業
- *地域の研修旅行で女がいないと困る（お茶汲み・会計）
- *区の役員をしたときに「女だからお茶を出してくれ」と言われた
- *トイレのおむつ替えのスペースが女性トイレしかない（ところもある）

人々の繋がり希薄に

主な意見

- *よそ（他）からの者は何年経っても仲間に入りにくい
- *何人かが寄り集まると人の悪口、噂話が多い
- *地域で自分の意見が言えない 女性の陰口が怖い
- *近所の方の会話が無い
- *一人親が増え、行事等の協力が少なくなった
- *子ども会の消滅
- *地域では、女性が女性の足を引っ張る

■ワークショップでの意見（地域について）

- ・課題解決のために住民や企業、行政が取り組むこと

男女共同参画の意識啓発を実施

主な意見

- *研修等に参加して自分の意見を持つ
- *高齢者や団体・組織のリーダーをはじめ、多くの人に男女共同参画の意識を高めてもらう
- *地域の若返りを図り、若い人の考えを取り入れていく（若い人にいかに地元に住んでもらうか）

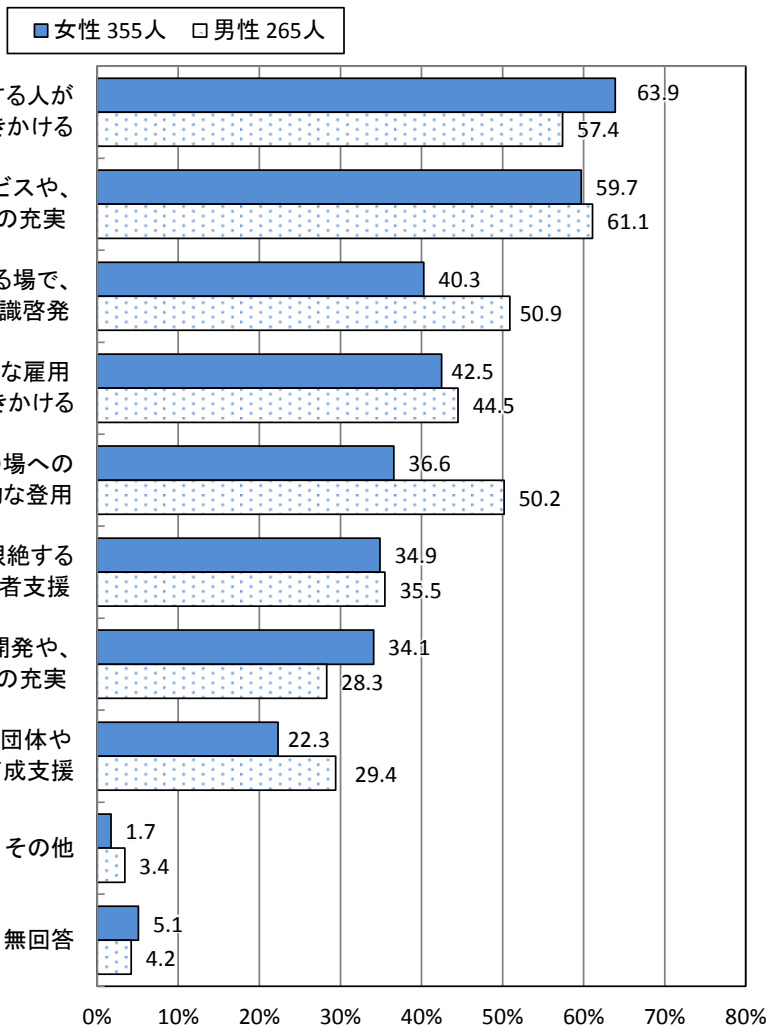
地域行事や役員などへの意欲的な参加と取り決め

主な意見

- *自分でできることをできるときに責任を持って参加していく
- *地域の行事に意識的に参加する
- *性別を言い訳にしない
- *自分の意見を言う
- *役員会の男女比をある程度決める
- *役員は当番で行う

男女共同参画社会の実現をめざして、今後、市はどのようなことに力を入れていったらよいか。（複数回答）

問26 男女共同参画社会をめざして、今後唐津市が力を入れるべきこと
(複数選択)



女性は、「事業所に対して育児や介護をする人が働きやすい職場環境整備を働きかける」63.9%、男性は、「保育施設・保育サービスや、介護施設・介護サービスの充実」61.1%が最も高くなっている。

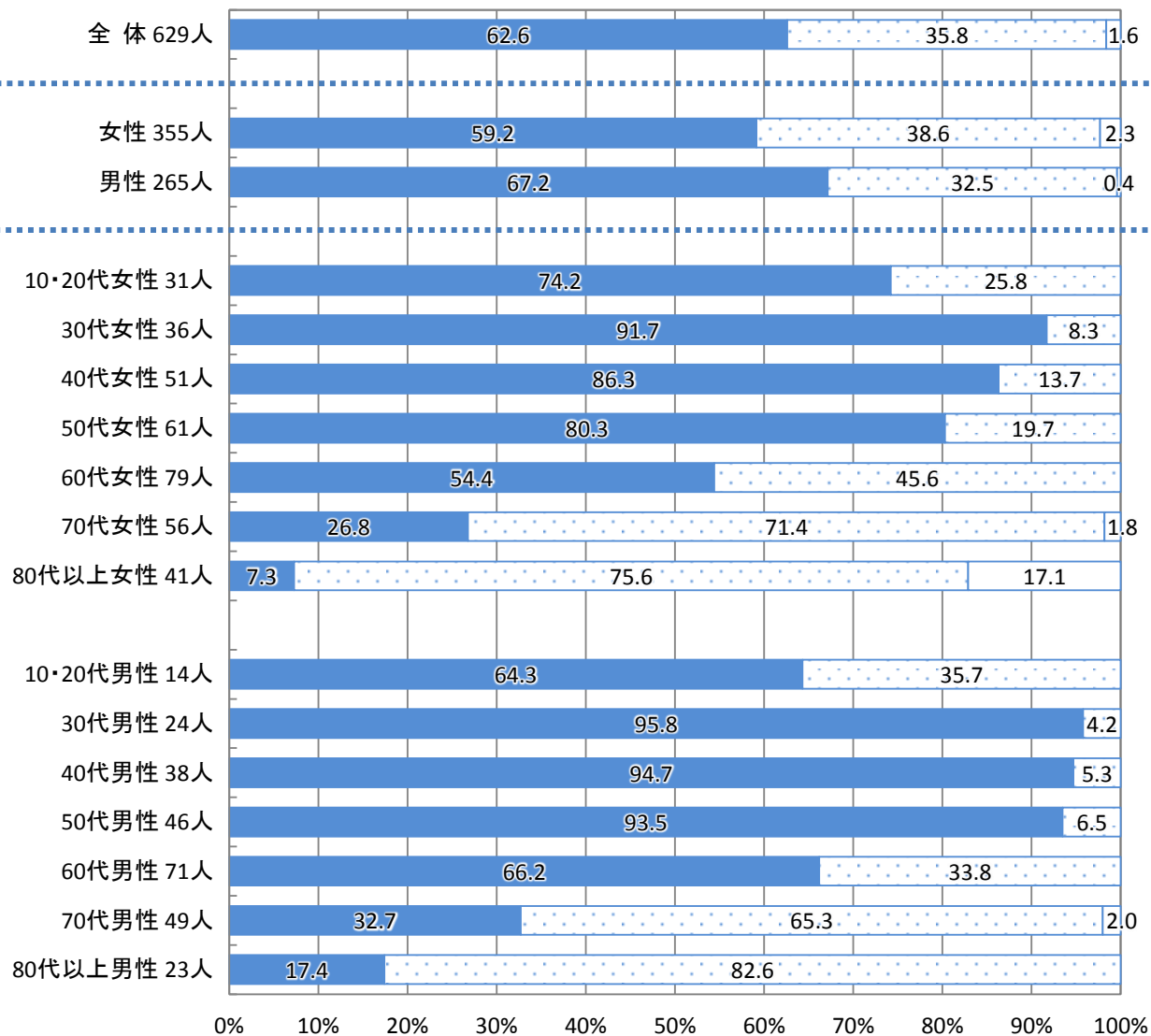
「政策や方針決定の場への女性の積極的な登用」は女性36.6%、男性50.2%となっており、男女間で13.6ポイントの差がある。

職場での男女共同参画

現在職業を持っていますか

問5 職業の有無

■ 持っている □ 持っていない □ 無回答



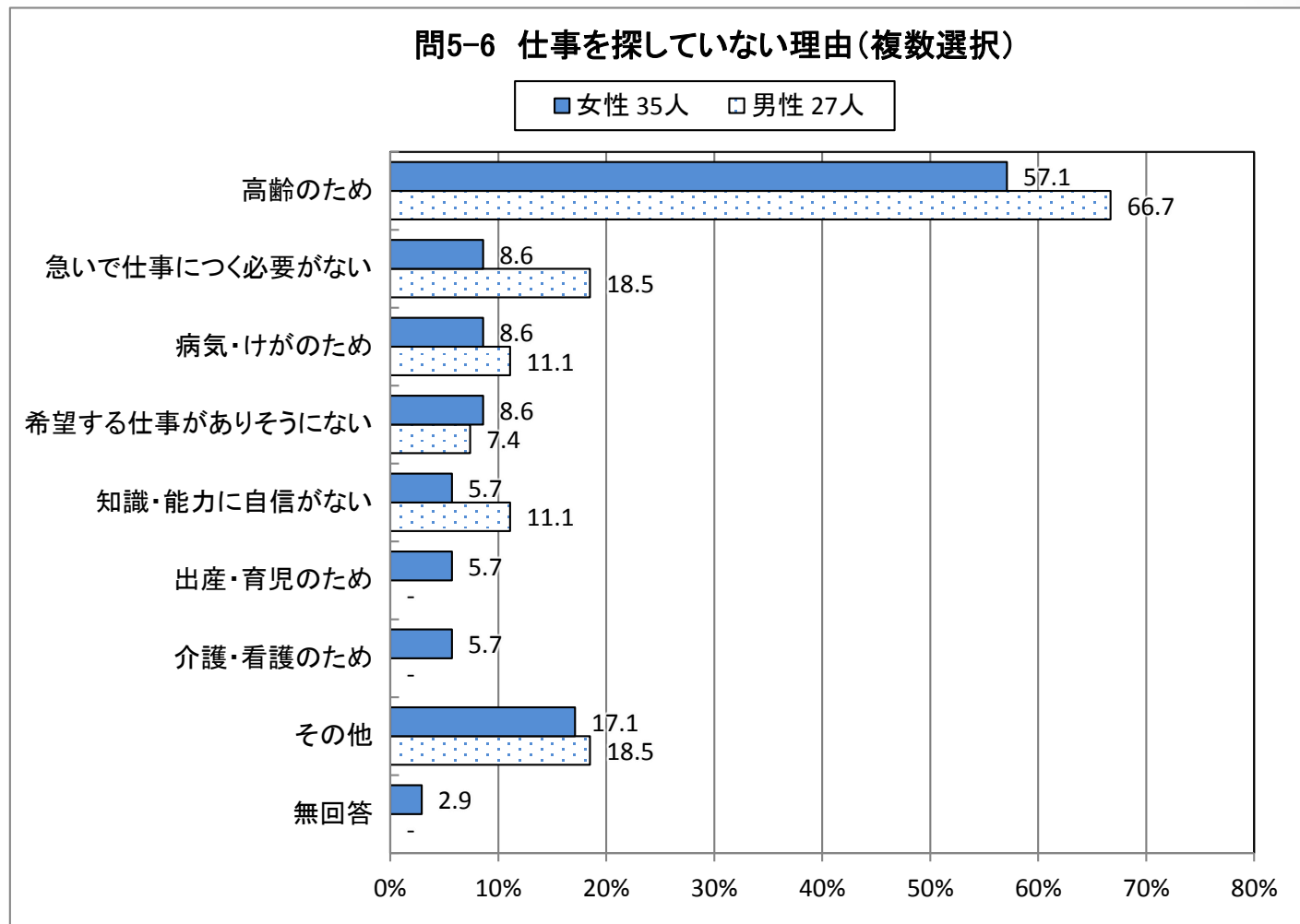
全体の62.6%、女性59.2%、男性67.2%が職業を持っている。

性別・年代別にみると、女性は、10・20代74.2%、30代91.7%、40代86.3%、50代80.3%、60代54.4%と、30代がピークになっている。

一方男性は、10・20代64.3%、30代95.8%、40代94.7%、50代93.5%、60代66.2%と、30代をピークに50代までは横ばいとなっている。

70代では、男女とも約3割、80代以上でも男性は17.4%の人が働いている。

【職業を持っていない人】仕事を探していない理由



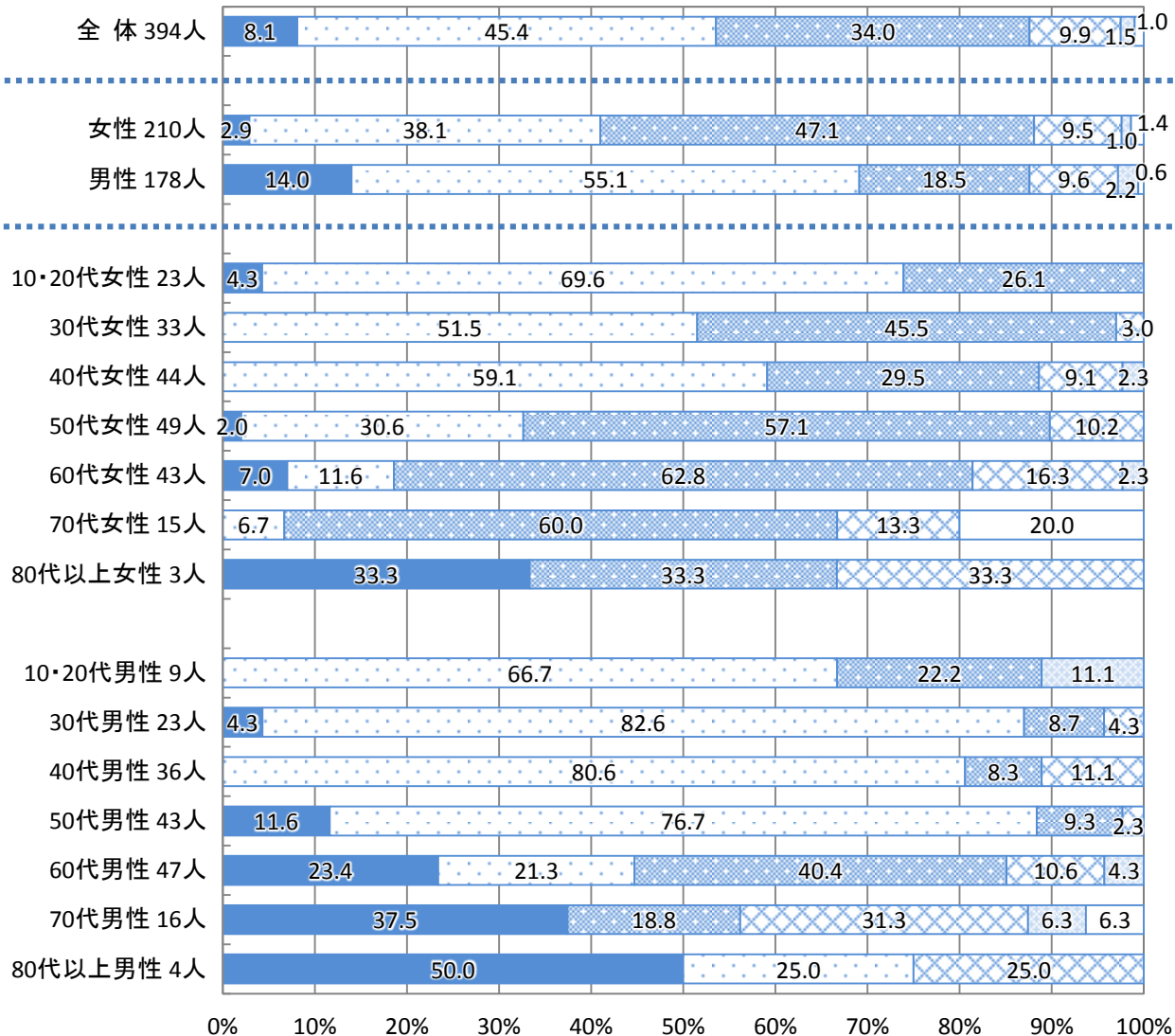
男女ともに、「高齢のため」が最も高く、女性57.1%、男性66.7%と5割を超えている。「急いで仕事につく必要がない」は、男性18.5%で女性8.6%より9.9ポイント高くなっているが、「出産・育児のため」「介護・看護のため」を理由として挙げたのは女性のみとなっている。

<市民意識調査>

どのような雇用形態で働いていますか。

問5-2 雇用形態

■ 事業主 □ 正規社員 ■ 非正規社員(嘱託、契約社員、
 パートタイム、アルバイトなど) □ 家族従事者(家業のお店や
 農林漁業などに従事) □ その他 □ 無回答

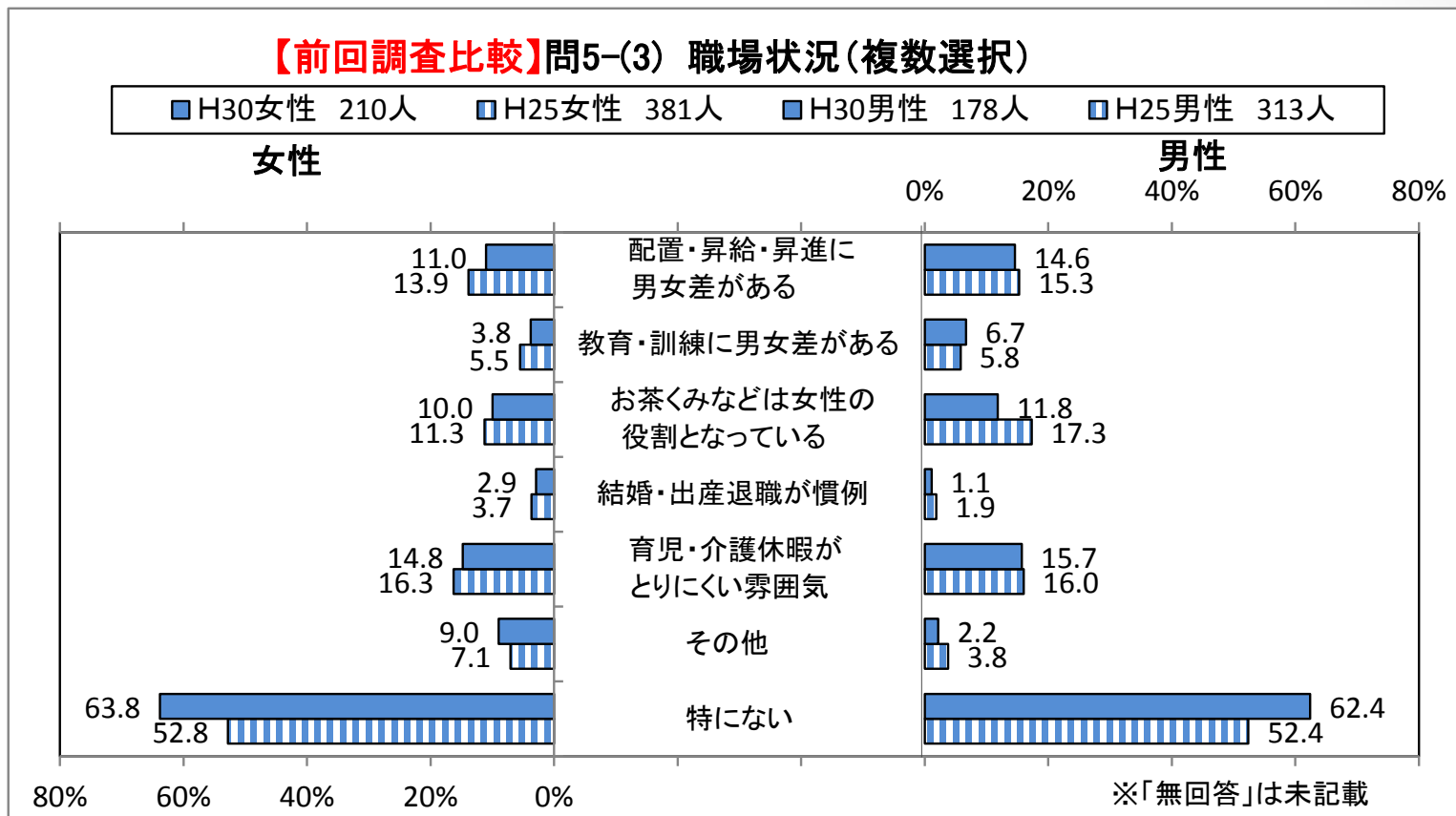


女性は、「非正規社員(嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど)」47.1%、男性は「正規社員」55.1%が最も高い。

年代別では、女性の10・20代から40代は「正規社員」が5割を超えており、50代で正規と非正規の割合が逆転している。

男性も、10・20代から50代は「正規社員」の割合が最も高く、30代・40代では8割を超えている。

あなたの職場では、次のような状況がありますか。



職場の状況について「特にない」と回答した女性は63.8%であり、前回調査の52.8%から11.0ポイント増加している。

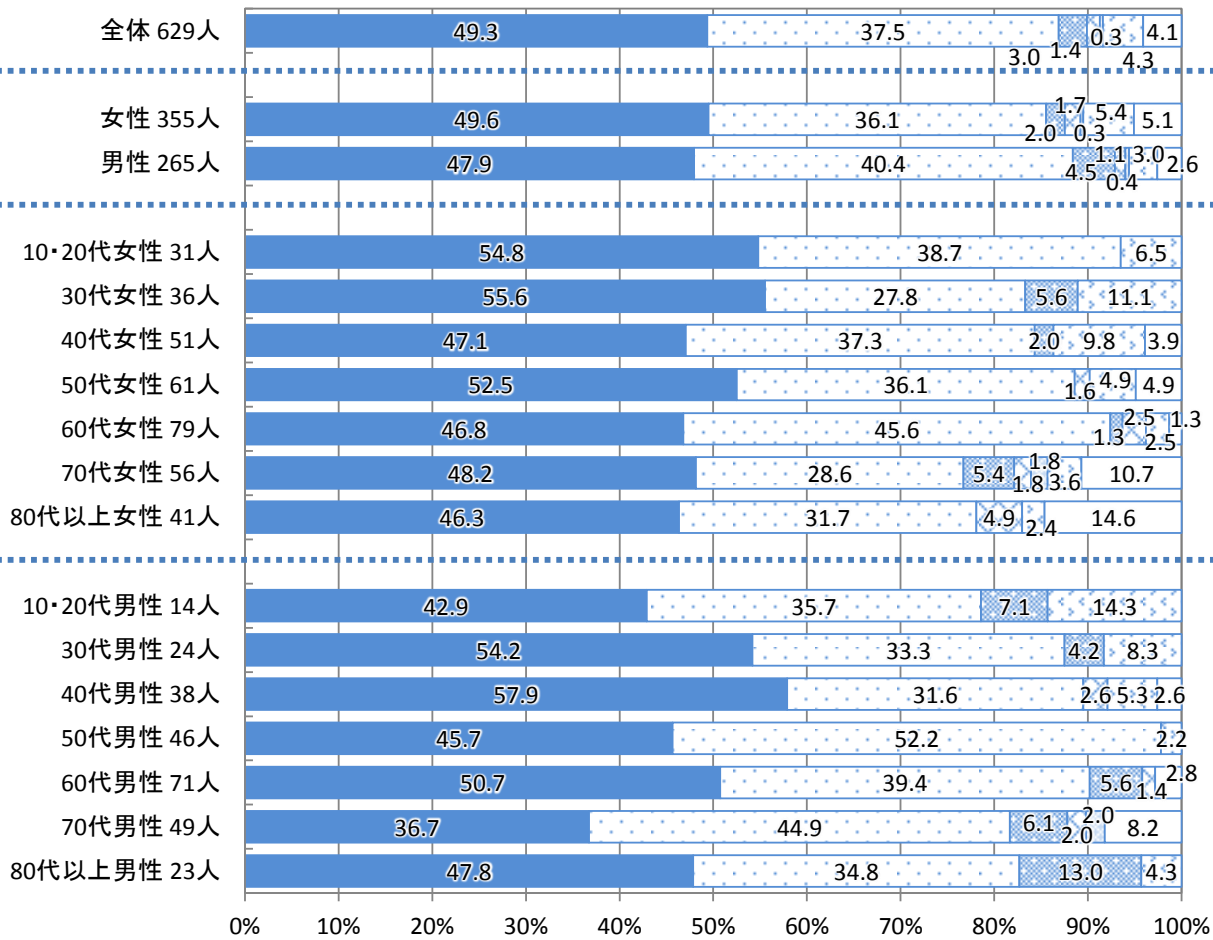
男性では、前回調査の52.4%から62.4%となり、10.0ポイント増加している。

多くの項目で前回調査からの職場環境の改善が見受けられるものの、「教育・訓練に男女差がある」と回答した男性が0.9ポイント、「その他」と回答した女性が1.9ポイント増加している。

あなたは女性が職業を持つことをどう思いますか。

問6 女性が職業を持つことをどう思うか

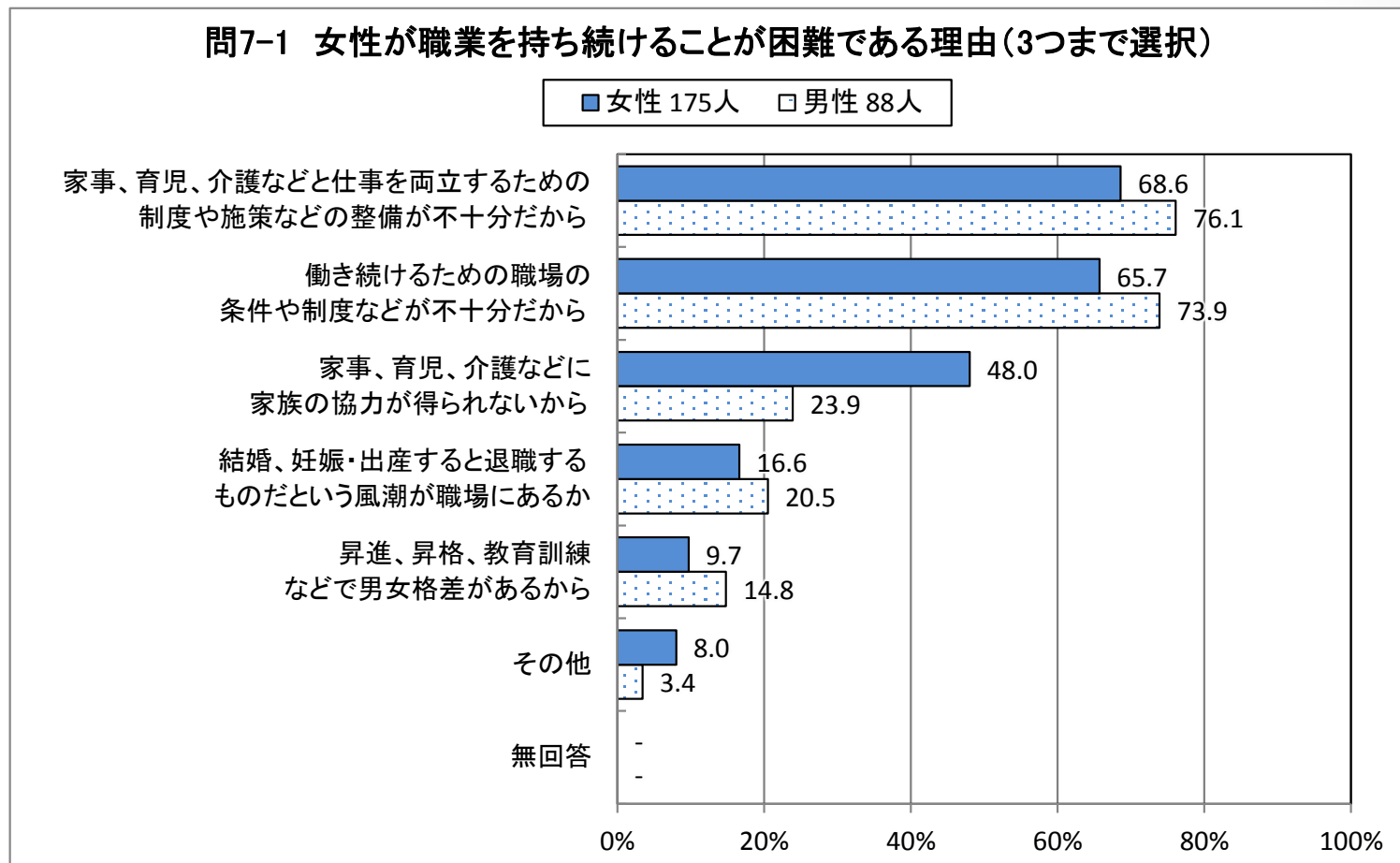
- ずっと職業を持っているほうがよい
- 子どもができたら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つほうがよい
- ▨ 子どもができるまでは職業を持ち、子どもが生まれてからは持たないほうがよい
- ▨ 結婚するまでは職業を持ち、結婚後は持たないほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- その他
- 無回答



全体では、「ずっと職業を持っているほうがよい」49.3%が最も高く、女性49.6%、男性47.9%と約5割を占めている。

次いで、「子どもができたら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つほうがよい」、3割以上となっており、子どもがいても成長したら、職業を持つほうがよいと考えている人が多い傾向が見られる。

女性が職業を持ち続けることが困難だと思う理由（3つまで）

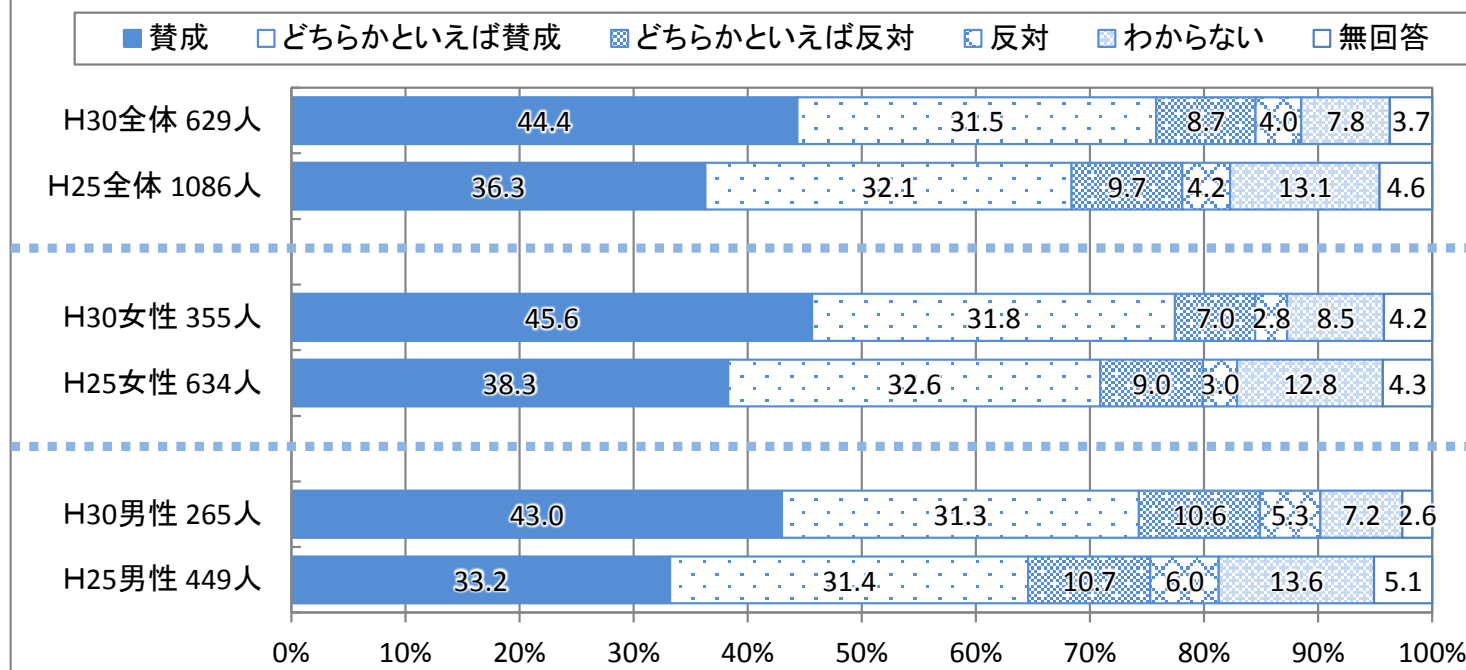


「家事、育児、介護などと仕事を両立するための制度や施策などの整備が不十分だから」が最も高く、女性68.6%、男性76.1%と、男性は7割を超えている。次に、「働き続けるための職場の条件や制度などが不十分だから」女性65.7%、男性73.9%となっており、男女ともに制度や施策、職場の協力が不十分と感じている割合が高い。

「家事、育児、介護などに家族の協力が得られないから」は、女性48.0%、男性23.9%で、女性が男性より24.1ポイント高く、男女間で認識に大きな差が見られる。

男性が育児休業を取得することをどう思いますか

【前回調査比較】問8-(1) 男性が育児休業を取得することをどう思いますか



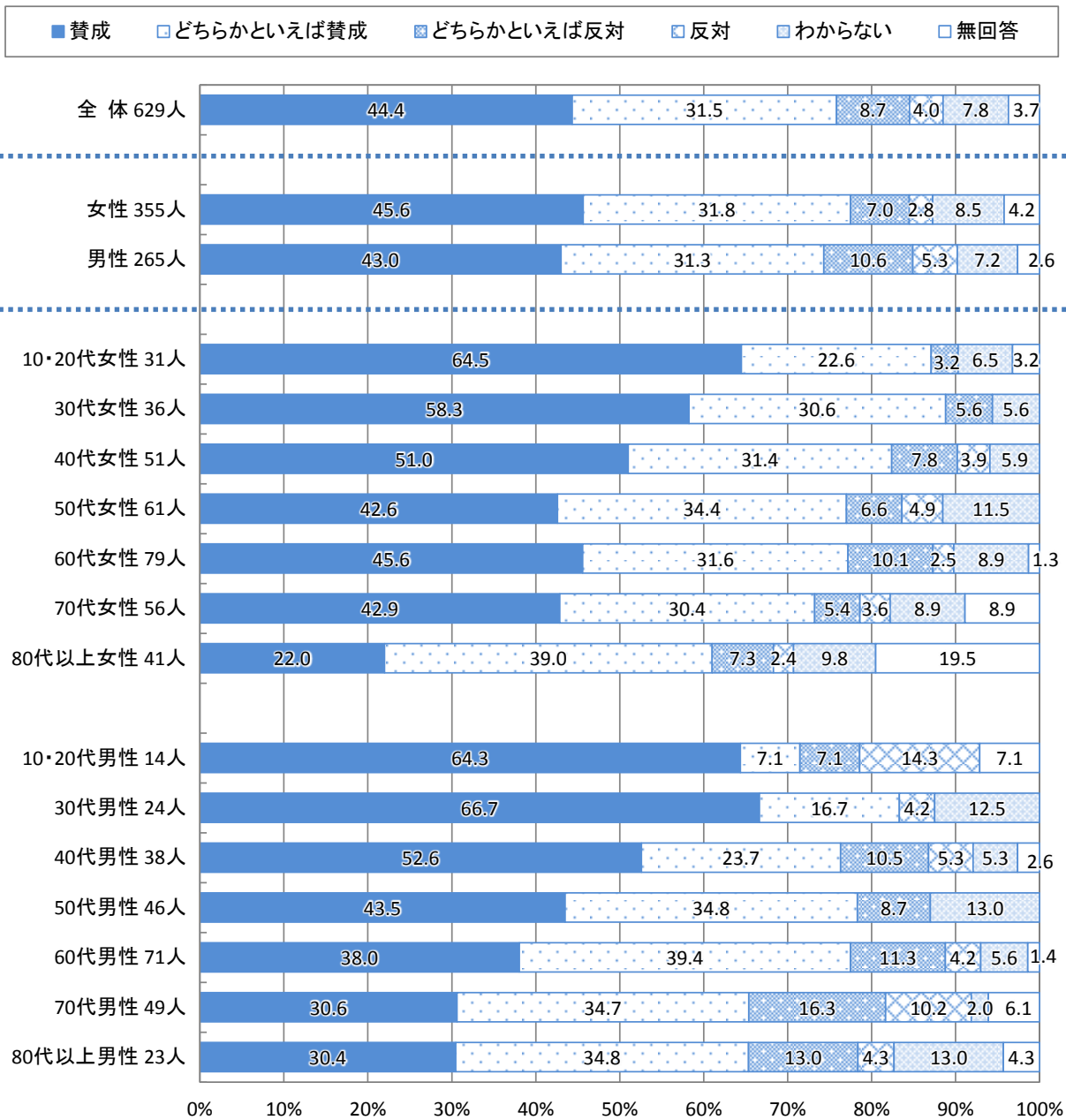
全体の『賛成率』75.9%、前回調査は『賛成率』68.4%で、5年間で7.5ポイント増加している。

男女別では、『賛成率』女性77.4%、男性74.3%、前回調査は『賛成率』女性70.9%、男性64.6%で、前回調査より女性6.5ポイント、男性9.7ポイント増加している。

性別年代別にみると、女性は80代以上以外「賛成」が最も高く、4割を超えており、特に、10・20代は64.5%と高い。男性は、10・20代から50代では「賛成」が最も高いが、年代が上がるにつれ、「どちらかといえば賛成」、「反対率」の割合が高くなっている。

男女ともに若い年代ほど、男性の育児休業取得に賛成する傾向が見られる。

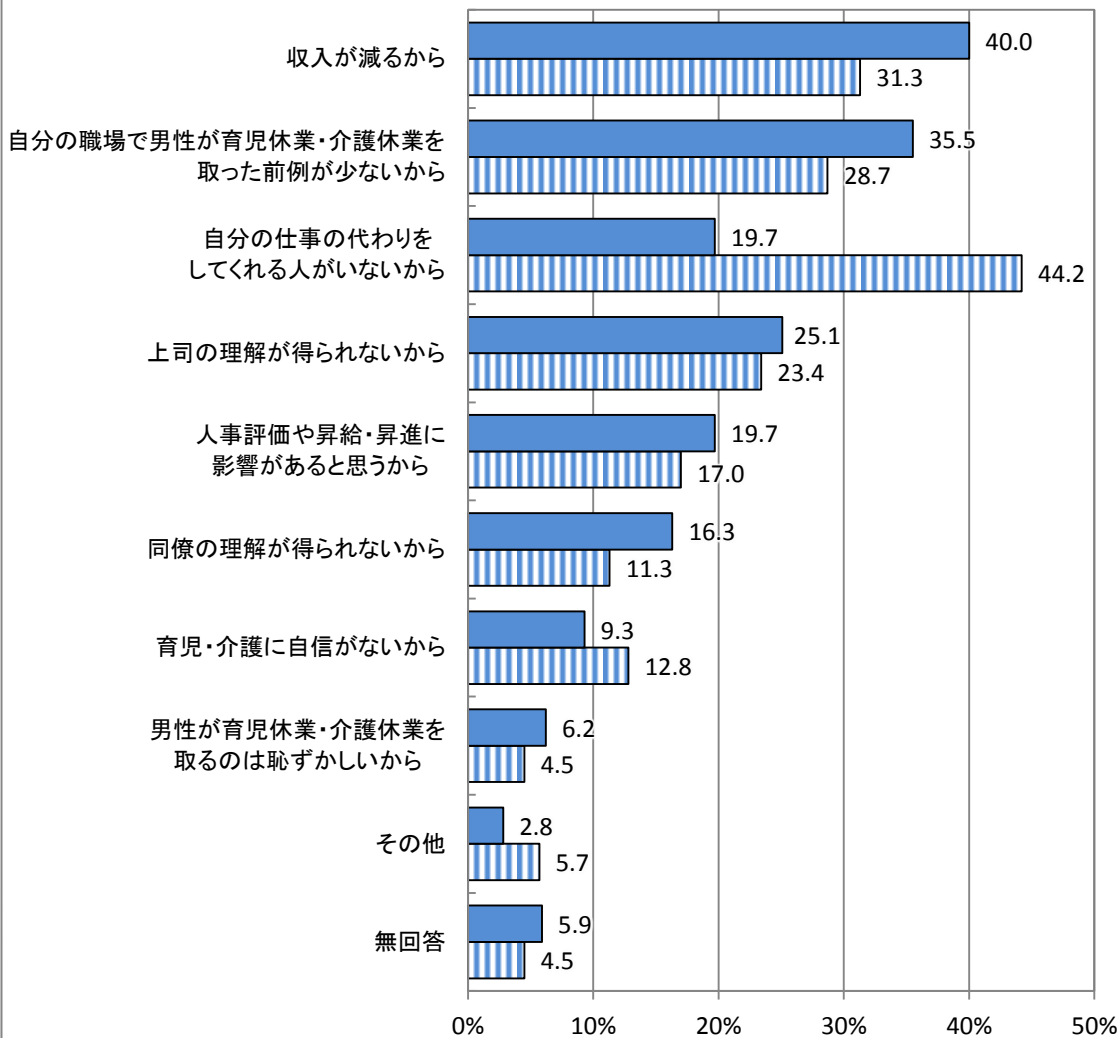
問8-(1) 男性が育児休業を取得することをどう思いますか



男性が育児休業・介護休業を取ることが進んでいない理由は

問9 男性の育児・介護休業の取得が進まない理由
(2つまで選択)

■ H30女性 355人 ■ H30男性 265人



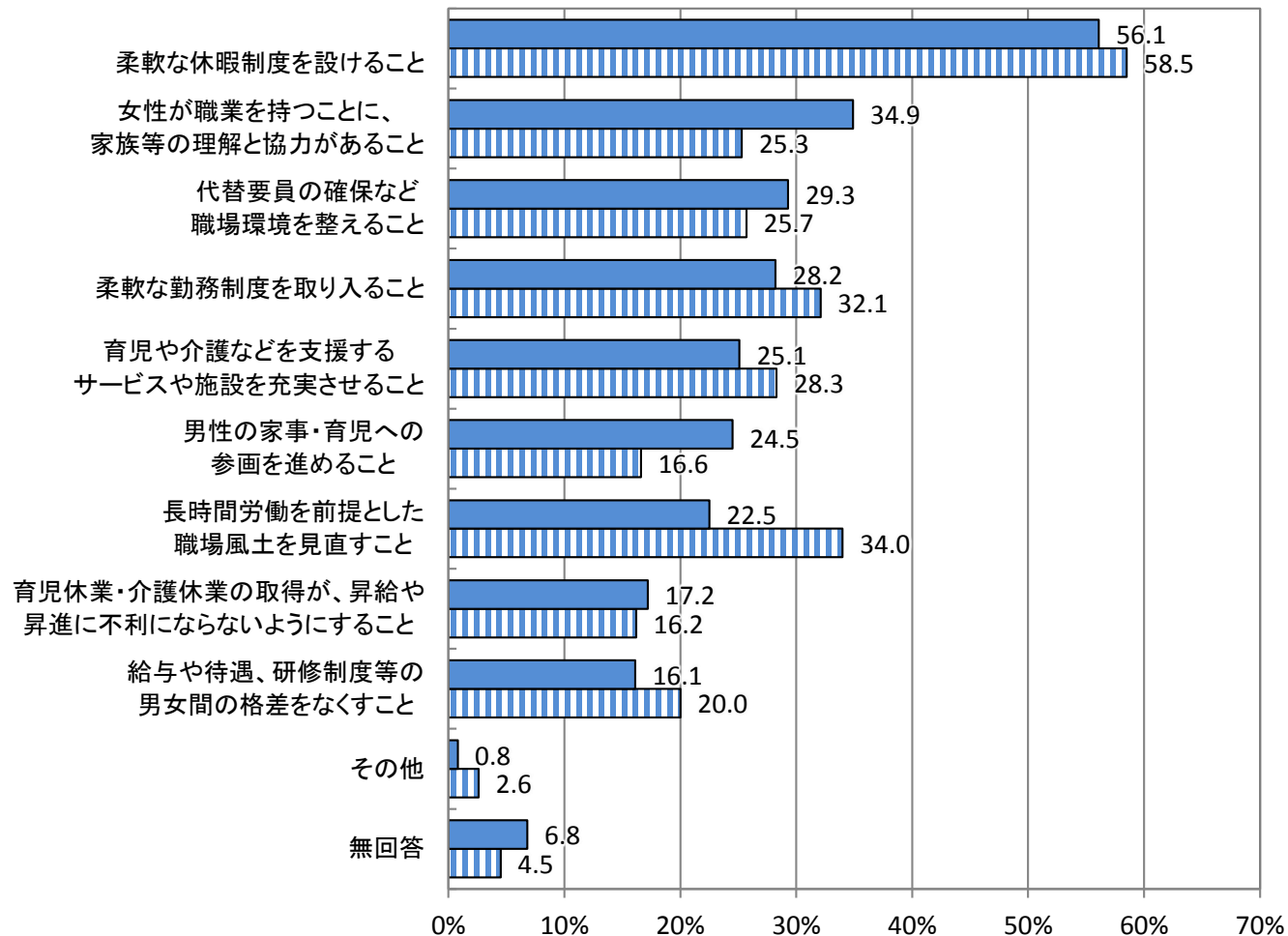
女性では、「収入が減るから」40.0%、「自分の職場で男性が育児休業・介護休業を取った前例が少ないから」35.5%、「上司の理解が得られない」25.1%の順になっている。

男性では、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいない」が、44.2%と4割を占めており、「収入が減るから」31.3%、「自分の職場で男性が育児休業・介護休業を取った前例が少ないから」28.7%の順になっている。

男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、何が必要だと思いますか

問12 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと(3つまで選択)

■ H30女性 355人 ▨ H30男性 265人

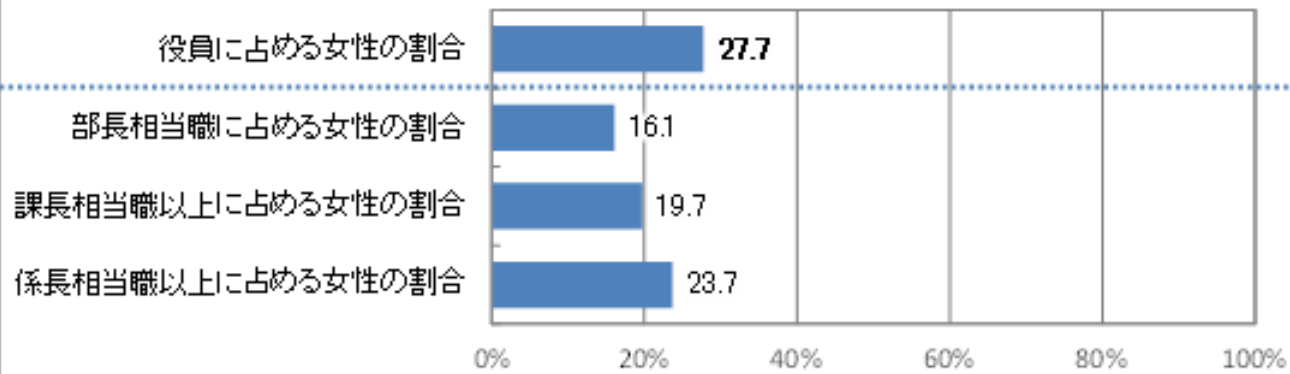


女性では、「柔軟な休暇制度を設けること」56.1%、「女性が職業を持つことに、家族等の理解と協力があること」34.9%、「代替要員の確保など職場環境を整えること」29.3%等の順になっている。

男性でも、「柔軟な休暇制度を設けること」が58.5%で、4割と男女とも最も高い必要なこととして挙げられており、次いで「長時間労働を前提とした職場風土を見直すこと」34.0%、「柔軟な勤務制度を取り入れること」32.1%となっている。

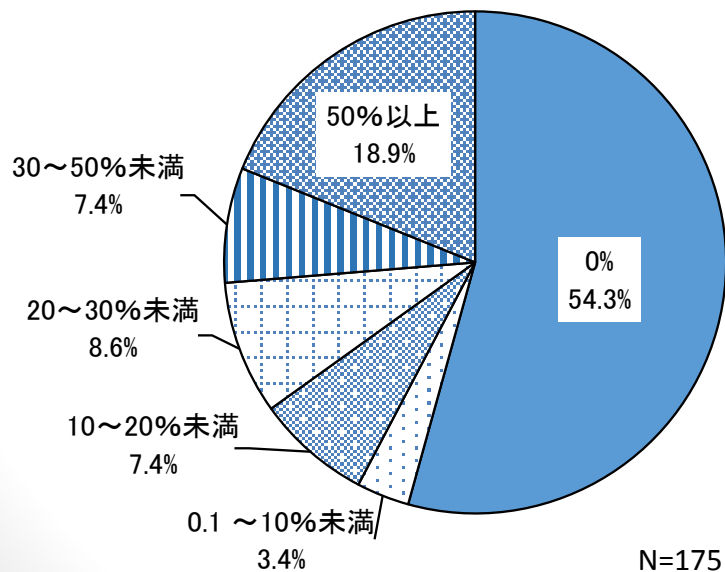
市内企業の女性管理職等登用数

問4 各役職別における女性管理職等の割合



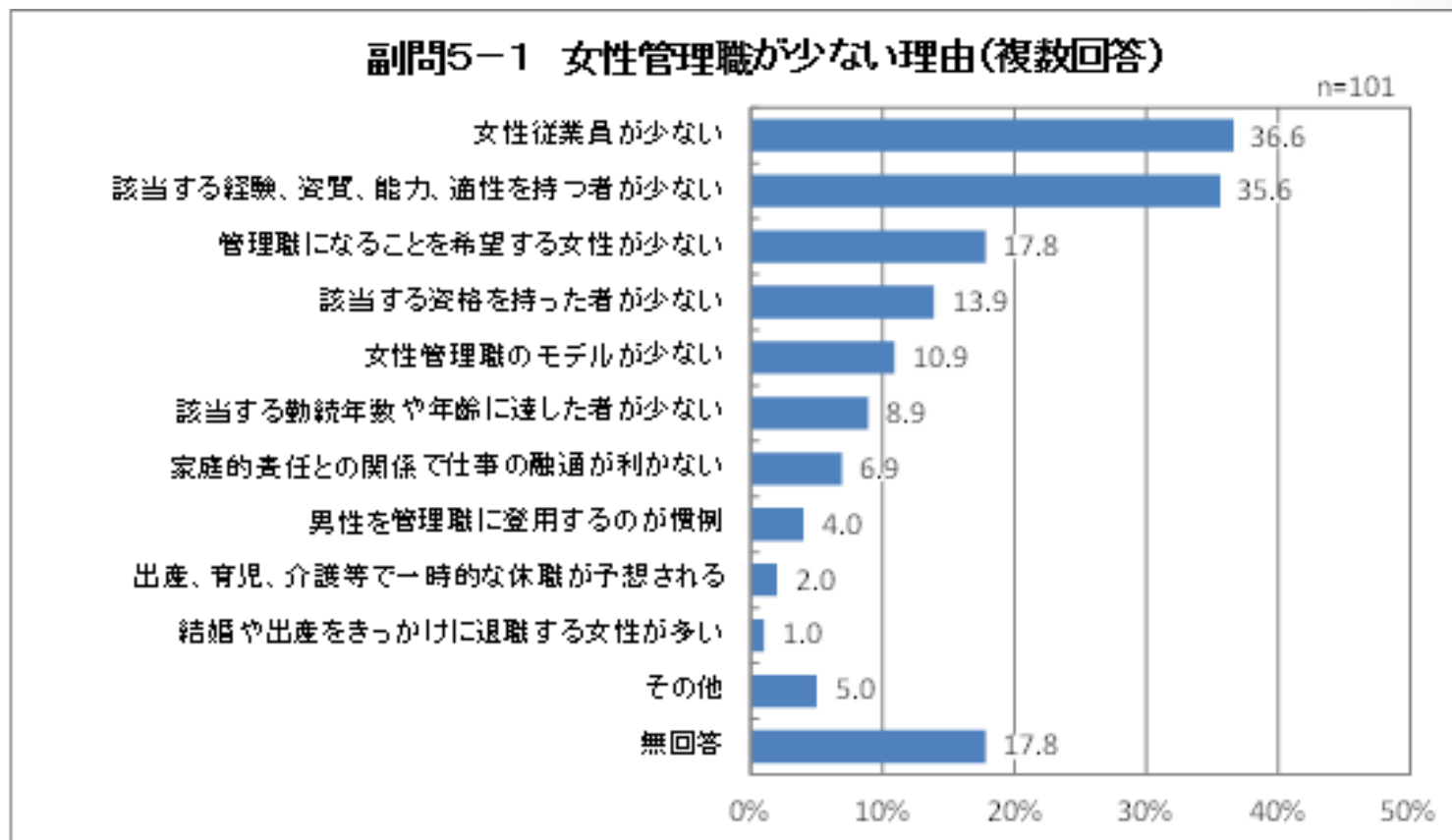
役職別の女性管理職等の割合では、「役員」に占める女性の割合が27.7%、「部長相当職」に占める女性の割合が16.1%、「課長相当職以上」に占める女性の割合が19.7%、「係長相当職以上」に占める女性の割合が23.7%となっている。

問5 女性管理職の割合



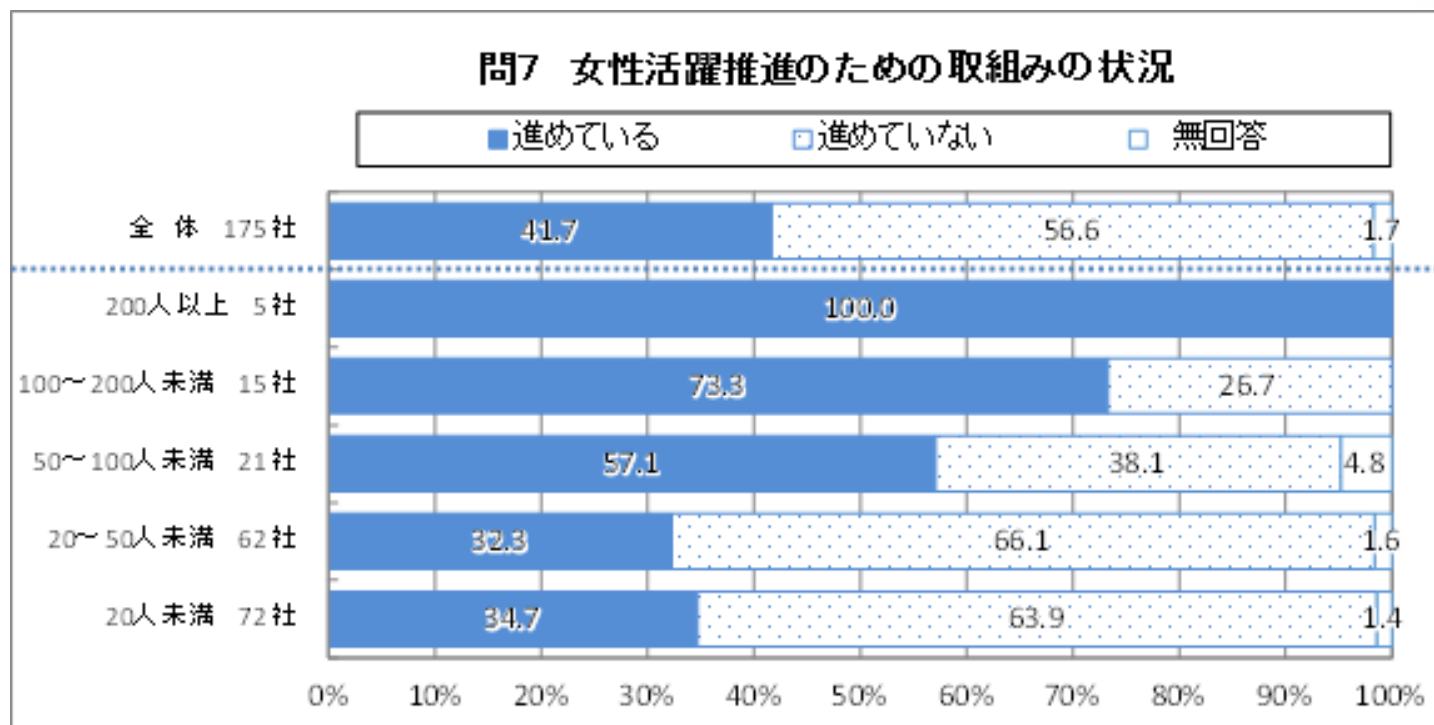
係長相当職以上の女性管理職の割合では、「0%」に占める女性の割合が54.3%と最も高く、「0.1～10%未満」3.4%と合わせて、女性管理職が「10%未満」の企業の割合が57.7%となり、全体の半数以上を占めている。

女性管理職が少ない理由（複数回答）



係長相当職以上の女性管理職の割合が10%未満であった企業の女性管理職が少ない理由としては、「女性従業員が少ない」が36.6%と最も高く、次いで、「該当する経験、資質、能力、適性を持つ者が少ない」が35.6%となっている。

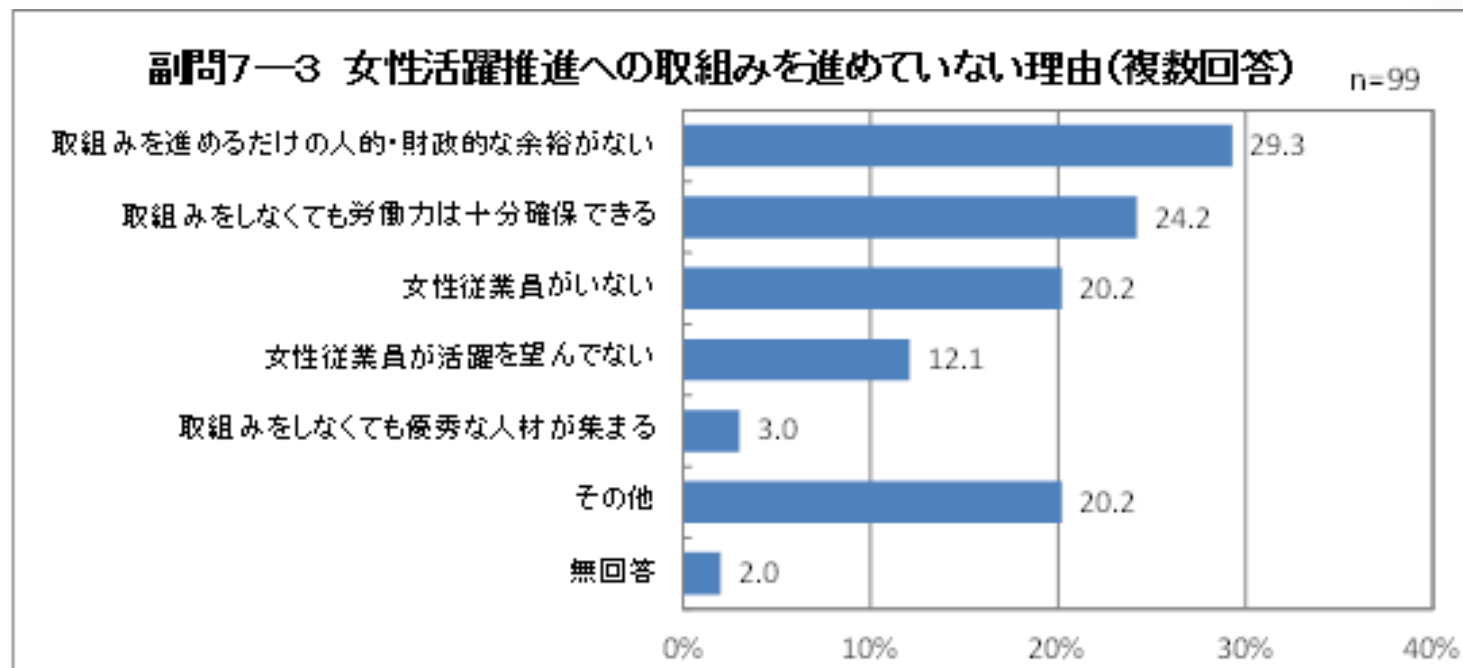
女性活躍推進のための取組み状況



女性活躍推進のための取組み状況の割合は、「進めていない」が56.6%、「進めている」が41.7%で、女性活躍推進のための取組みを進めていない企業の割合が14.9ポイント高くなっている。

規模別では、200人以上の企業では「進めている」が100.0%となっており、従業員数が多いほど、女性活躍推進のための取組みを進めていることがわかる。

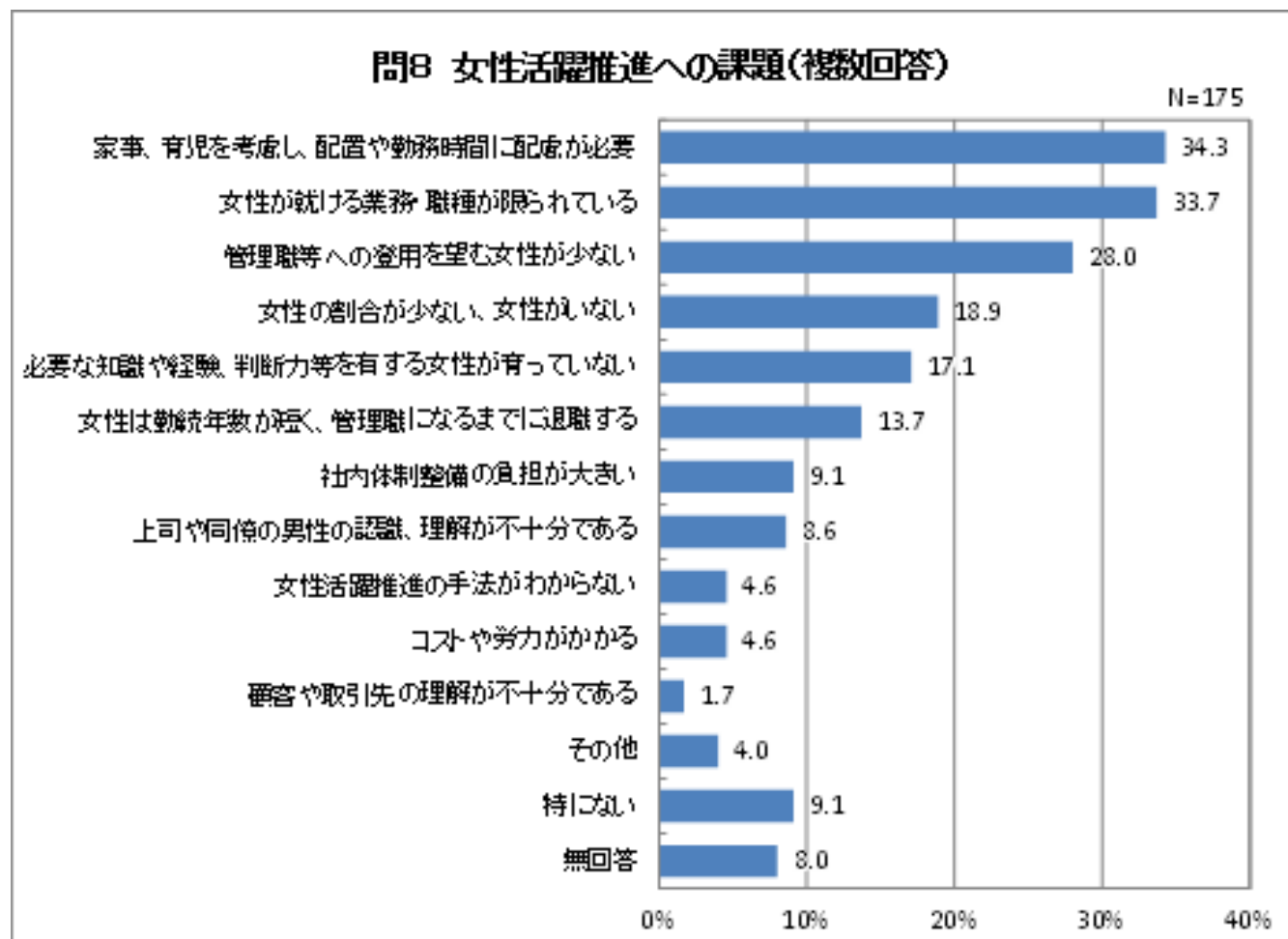
女性活躍推進への取組みを進めていない理由（複数回答）



女性活躍推進への取組みを進めていない理由は、「取組みを進めるだけの人材・財政的な余裕がない」29.3%と最も高く、次いで「取組みをしなくても労働力は十分確保できる」24.2%、「女性従業員がいない」20.2%等となっている。

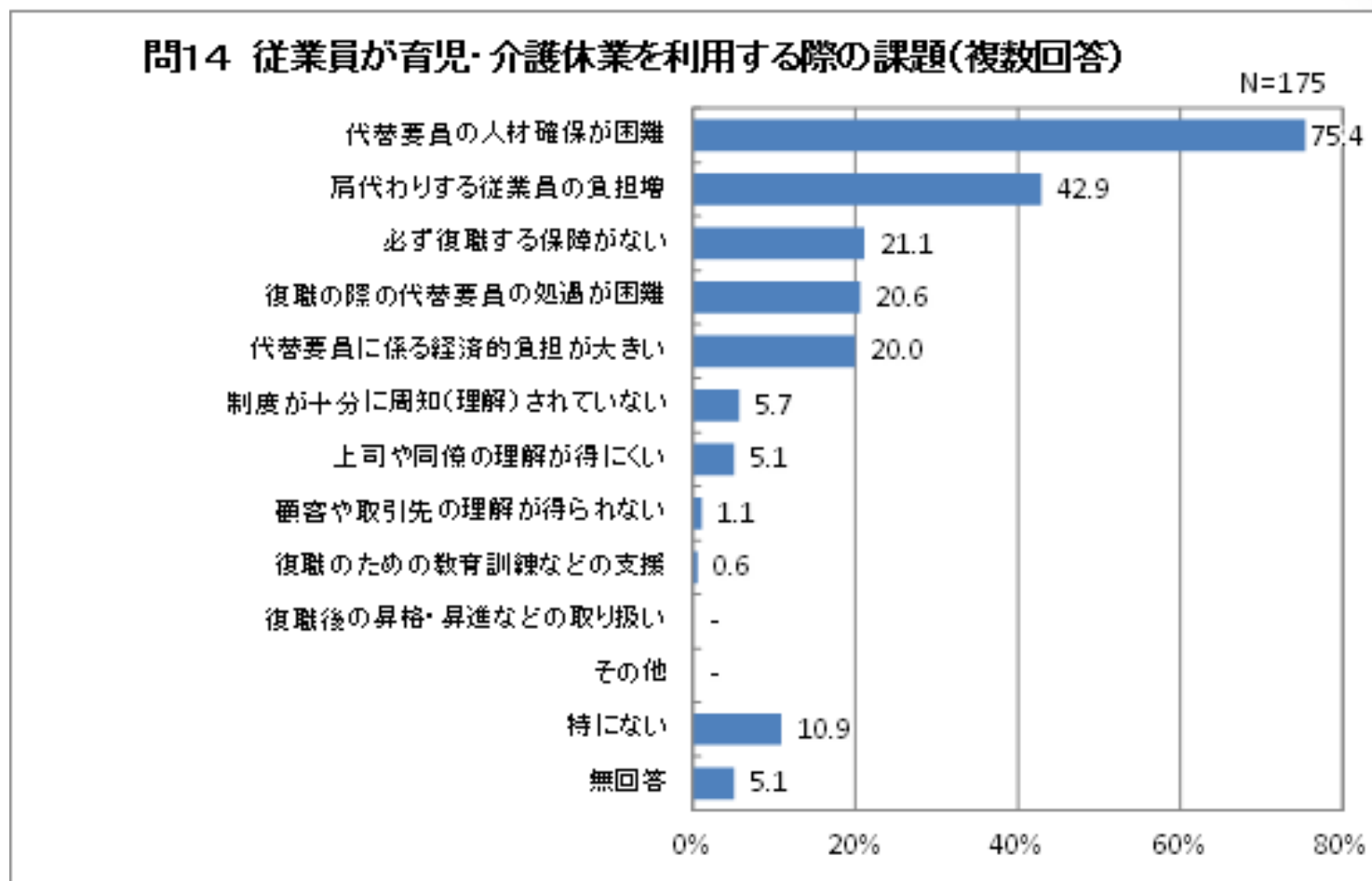
また、「その他」の理由としては、「職種が女性向けではない」（8件）が多く挙げられている。

女性活躍推進への課題（複数回答）



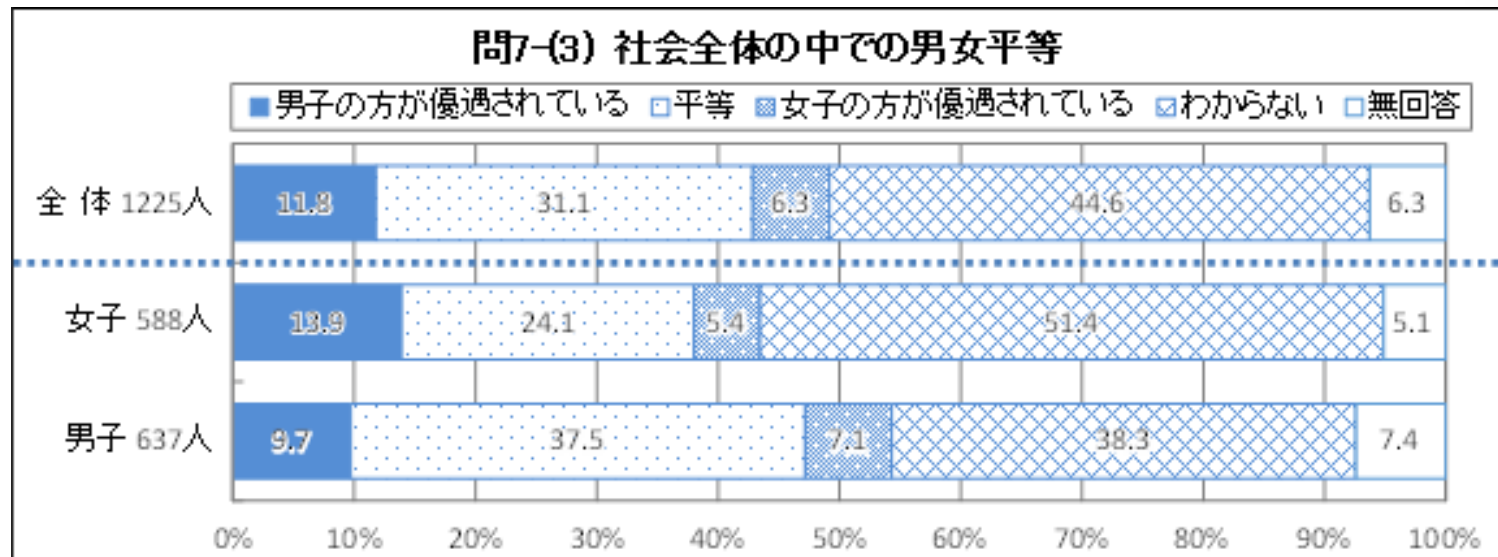
女性活躍推進への課題は、「家事、育児を考慮し、配置や勤務時間に配慮が必要」34.3%と最も高く、次いで「女性が就ける業務・職種が限られている」33.7%、「管理職等への登用を望む女性が少ない」28.0%等の順となっている。

従業員が育児・介護休業を利用する際の課題（複数回答）



従業員が育児・介護休業を利用する際の課題は、「代替要員の人材確保が困難」75.4%と最も高く、次いで「肩代わりする従業員の負担増」42.9%等の順となっている。

今の社会では、男女は平等になっていると思うか (社会全体の中での男女平等)



社会全体の中での男女平等について、全体では「わからない」の割合が最も高く44.6%となっており、次いで「平等」31.1%、「男子の方が優遇されている」11.8%、「女子の方が優遇されている」6.3%等となっている。

男女別では、「平等」において、女子は24.1%、男子37.5%と、男子が13.4ポイント高くなっている。

(次ページ「仕事」について、男女平等ではないと感じている具体的な内容)

仕事に関する記述 (59)	
昇給・昇進時に関する記述 (34)	
女子の意見 (16人)	<ul style="list-style-type: none"> ・男の人の方が給料高い。 ・役職や給料など男性の方が上だと思う。 ・警察官や校長先生など、上の地位に男性の方がなりやすいところ。(出世しやすい)
男子の意見 (12人)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師になるのを女性はあまり評価されていない。 ・政治家とか男性の方が多いし、給料とかも男性の方が多いと感じるから。
女性が働く上での問題に関する記述 (11)	
女子の意見 (9人)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てとか、家事とか ・妊娠した時などの会社の対応
男子の意見 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> ・男は仕事だけ、女は仕事・家事する。男が楽してる。
仕事上に関する記述 (10)	
女子の意見 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> ・男には力仕事をさせて給料が多い。 ・ノー残業デーの女性社員だけのやつ。男性はタイムカード押すだけで残られるやつ。
男子の意見 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> ・職業によって力仕事を任されるなどがあるから
求職時に関する記述 (9)	
女子の意見 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> ・男性を求める仕事が多いこと。
男子の意見 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> ・女子ができなくて、男子だけが出来る、入れるみたいな仕事があると思うから。
ニュースで見た時に関する記述 (24)	
女子の意見 (17人)	<ul style="list-style-type: none"> ・産休、育休をとった後、仕事に戻れないとか、大学入試で男子に点数を加算していたとかいう ・最近のニュースで大学の医学部入試で、女性の点数を下げて落とされたというニュースがあり、やはり男性の方が頼れるから優遇されているのかと思った。 ・女性が土俵に上がって、それを止められてニュースになったこと。
男子の意見 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースで大学の問題を見ていると、男性の方が優遇されているなど思う。

■ワークショップでの意見（職場について）

・男女共同参画に関してプラスの変化を感じる点

女性活躍、職種 …等多岐にわたる。

主な意見

- * 女性の営業職・管理職が増加した
- * 小さい子どもを育てている女性も長く働けるようになった
- * 保育園・幼稚園に男性の職員が増えてきた
- * 男性の看護師が増えた
- * 飲み物は各自で準備するようになった
- * 男性が（配偶者の）出産休暇を取るようになった
- * 飲み会の際に「飲めない」という主張が尊重されるようになった 等

・男女共同参画社会実現のために解決すべき課題

女性の管理職が少ない

主な意見

- * 女性管理職の割合が低い
- * 仕事場で「会長職は女でいいかな？」（女性に任せてよいのか？）
- * 責任者は男性がなるべきという空気がある
- * 事務員の男女比率

■ワークショップでの意見（職場について）

- ・ 男女共同参画社会実現のために解決すべき課題

女性だから、という意識

主な意見

- * 若い女性は名前に「ちゃん」付けで呼ばれている
- * 仕事上でお願いに行ったとき女性はどうしても軽く見られがち
- * 来客時のお茶出し
- * 車販売店のコーヒー出し
- * 昇進したくない女性がいる

男性の育児休業取得率の低さ

主な意見

- * 男性の育児休業取得率が低い

■ワークショップでの意見（職場について）

- ・ 課題解決のために住民や企業、行政が取り組むこと

個性を活かした仕事や職場の雰囲気構築

主な意見

- * 成果主義で役職を決める
- * 人手不足の時代。性別にかかわらず個性を生かす
- * 人の個性を尊重し互いにそれを活かす雰囲気をつくる（人の長所にポイントを置く）
- * 性別差を意識しすぎず個性を活かすようにする
- * 仕事の内容で賃金を決める
- * 職種や職場にもよるが、非合理的な規則・慣行がないか見直す視点を持つてもよいと思う
- * 女性の管理職を増やす（多様な視点で仕事を見る）

■従業員グループインタビューでの主な意見

◎女性活躍推進への課題

- ・ 管理職等への登用を望む女性が少ない。
- ・ 女性の家事、育児の負担を考慮し、配置や勤務時間に配慮する必要がある。
- ・ 必要な知識や経験、判断力等を有する女性が育っていない。
- ・ 上司や同僚の男性の認識、理解が不十分である。
- ・ 女性の割合が少ない、あるいは女性がいない。
- ・ 顧客や取引先の理解が不十分である。
- ・ 社内体制整備（制度や設備）の負担が大きい。

◎女性活躍推進のために必要な取り組み

- ・ 勤務地、勤務時間など女性が働きやすい社会制度の整備
- ・ 女性役員、管理職の割合を増やす。
- ・ 女性活躍推進のための意識啓発、研修の実施
- ・ 女性向け相談、サポート体制の整備
- ・ 女性の採用や昇進における数値目標の設定
- ・ 女性が担当する職種、職域を拡大
- ・ 女性に対する教育・研修機会の拡大

■従業員グループインタビューでの主な意見

◎男女共同参画推進への課題

- ・ お茶くみ等が女性の役割になっている。
- ・ 配置、昇給、昇進に男女差がある。
- ・ パワハラやセクハラがある／見聞きしたことがある。
- ・ 長時間労働が常態化している。
- ・ 育児を理由とした休暇が取りにくい雰囲気がある。

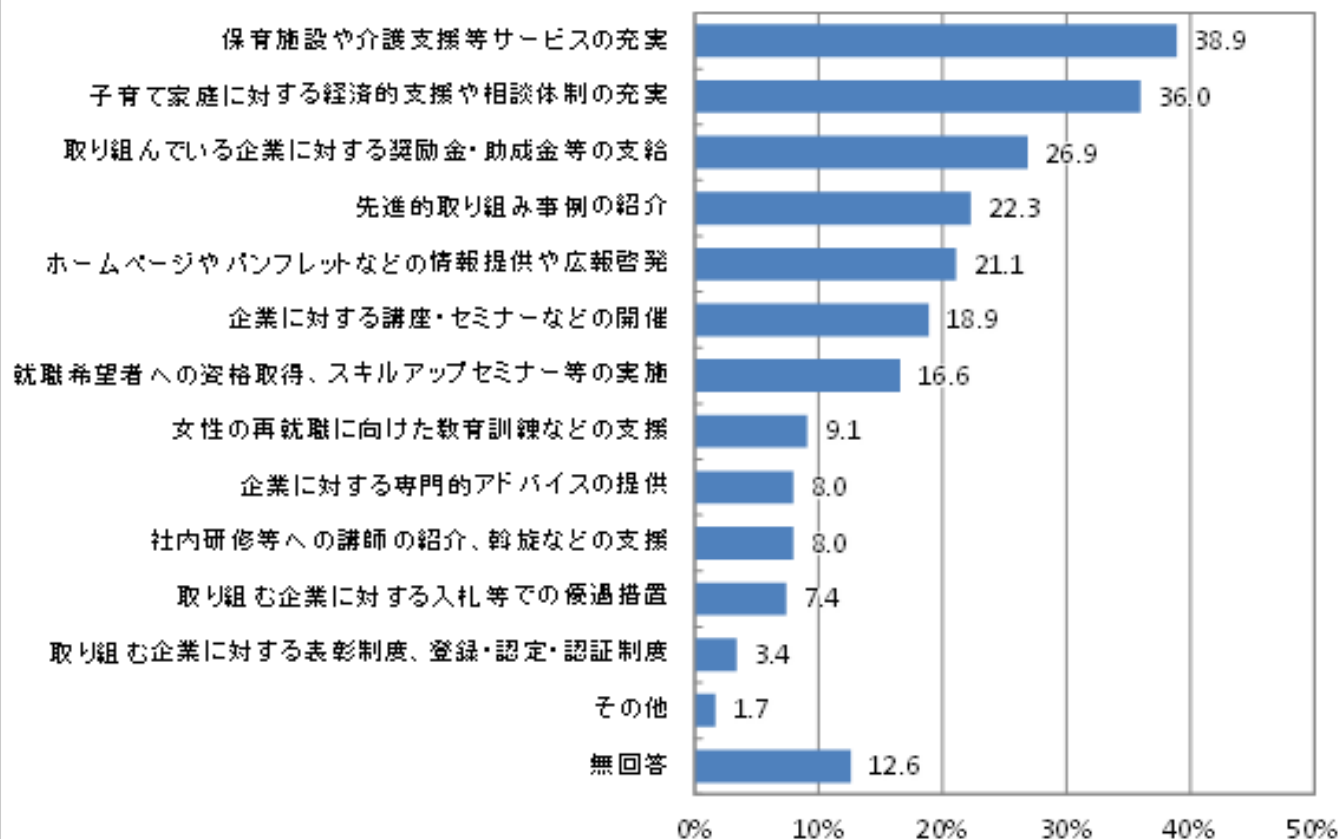
◎男女共同参画推進のために必要な取り組み

- ・ 先進的な取り組み事例の紹介
- ・ 保育施設や介護支援等サービスの充実
- ・ 取り組んでいる企業に対する奨励金や助成金などの支給
- ・ 子育て家庭に対する経済的支援や相談体制の充実
- ・ 企業に対する専門的アドバイスの提供
- ・ 女性の再就職に向けた教育訓練などの支援
- ・ 取り組んでいる企業に対する表彰制度、登録・認定・認証制度
- ・ 取り組んでいる企業の入札等での優遇措置
- ・ 社内研修等への講師の紹介、あっせんなどの支援
- ・ ホームページやパンフレットなどによる情報提供や広報啓発
- ・ 就職希望者への資格取得、スキルアップセミナー等の実施

男女共同参画や女性の活躍推進にあたり、企業が市に希望する取組み・支援（複数回答）

問19 男女共同参画や女性の活躍推進にあたり、唐津市に希望する取組み・支援(複数回答)

N=175



男女共同参画や女性の活躍推進にあたり市に希望する取組み・支援は、「保育施設や介護支援等のサービスの充実」が38.9%と最も高くなっており、次いで「子育て家庭に対する経済的支援や相談体制の充実」36.0%、「取り組んでいる企業に対する奨励金・助成金等の支給」26.9%、「先進的取り組み事例の紹介」22.3%等の順となっている。